クボタロータリ

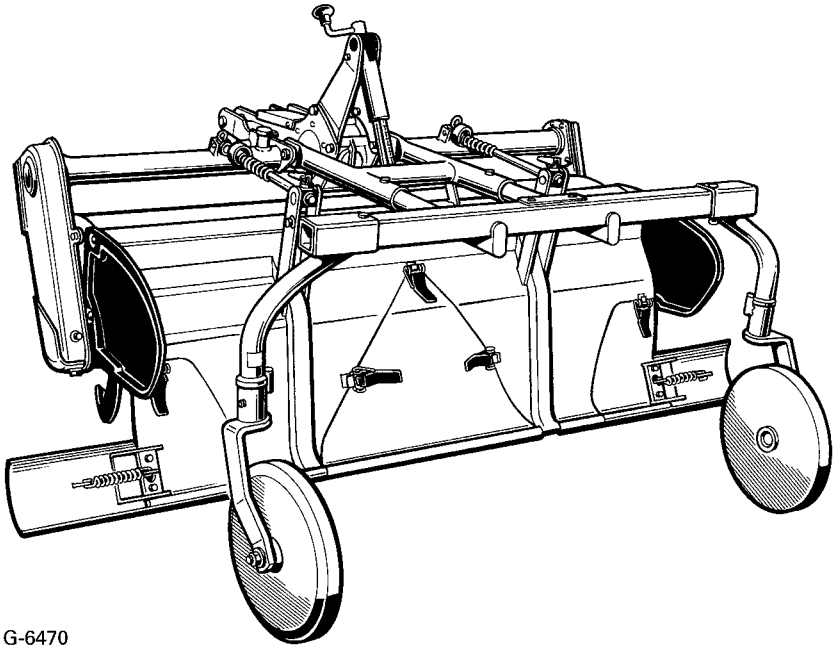
取扱説明書

RS
100SE(K)・110(E)(K)(N)
120・130(PC)
140(PC)・150(PC)

(サイドドライブロータリ)

RK
70-SPB
80W・80W2-SPB
110(SE)
130

(センタドライブロータリ)



G-6470

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はRS130-VBを基本とし，RS130-VBと取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 後2輪付き …… **B仕様**
- スタンド付き(後２輪無し) …… **標準仕様**
- カバー仕様
  - 畝立機用長穴カバー付 …… **標準仕様**
  - 畝立機用Vカットカバー付 …… **V仕様**
  - 300㎜延長カバー付（センタードライブロータリ） …… **W仕様**
  - サイドドライブロータリ …… **ＲＳ仕様**
  - センタドライブロータリ …… **ＲＫ仕様**
- Ｅタイプ仕様 …… **Ｅ仕様**
- 接近仕様 …… **ＳＥ仕様**
- パワクロ専用ロータリ …… **ＰＣ仕様**
- 一体形ロータリカバー(2)付 …… **K仕様(果樹園仕様)**
- さとうきび管理作業用ロータリ …… **RK80W2-SPB**
  RK70-SPB

7F212-5991-3

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1

ロータリの着脱のしかた …… 2
トラクタとの組合せ …… 2
ロータリ着脱時の準備 …… 2
取外し方 …… 3
取付け方 …… 5

ロータリの上手な使い方 …… 9
適応作業速度 …… 9
なた爪の取付け方 …… 9
サイドドライブ仕様 …… 10
草巻付き防止ワイヤ
【センタドライブ，E・SE・K仕様を除く】… 10
センタドライブ仕様 …… 13
耕幅調節(RK80W・RK80W2・RK70
RK110(SE)・RK130) …… 13
均平耕法の配列 …… 14
1つ盛り耕法の配列 …… 14
2つ盛り耕法の配列 …… 15

ロータリの調整 …… 16
ロータリカバーの調整 …… 16
スナップピンの位置
【RK80W2-SPB, RK70-SPBは除く】 … 16
オートハンガの調整
**【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB,
RK70-SPBを除く】** …… 17
スプリングロックの調整
**【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB,
RK70-SPBを除く】** …… 17
ロッドスペーサの使用法**【PC仕様】** …… 18
補助カバーR・Lの取外し方**【K仕様除く】** … 19
サイドカバーの上手な使い方 …… 19
延長カバーの使用法
**【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB,
RK70-SPBを除く】** …… 20
後2輪の調整**【B仕様】** …… 20
後2輪ホルダ2の前後調整 …… 20
後2輪ホルダ2の上下調整 …… 21
後2輪ハンドルによる耕深調整 …… 21
畝立機の取付け(別売りオプション) …… 21
Vカバー仕様の場合 …… 22
標準仕様の場合**【K仕様除く】** …… 22
培土・片培土反転金具の取扱いについて … 23
逆転PTOの使用方法 …… 23
爪軸交換のしかた …… 24

作業前の点検について(日常点検) …… 26
点検箇所 …… 26
点検は次の順序で実施してください … 26
点検のしかた …… 26
1ユニバーサルジョイントの
ロックピンの確認 …… 26

ロータリの簡単な手入れと処置 …… 27
定期点検箇所一覧表 …… 27
給油一覧表 …… 28
推奨オイル・グリース一覧表 …… 28
オイル …… 28
グリース …… 28
各部の油量点検と交換 …… 29
ギヤーケースオイル
【サイドドライブ仕様】 …… 29
チェーンケースオイル
【サイドドライブ仕様】 …… 30
ロータリケースオイル
【センタドライブ仕様】 …… 30
グリース・オイルの補給と注油 …… 31
ユニバーサルジョイント …… 31
2点リンク連結部 …… 31
サイドフレーム下側ベアリングケース
【サイドドライブ仕様】 …… 31
後2輪のグリースニップル部**【B仕様】** … 31
内管(後2輪調整ネジ部) …… 31
オートハンガしゅう動，回動部
**【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB,
RK70-SPBを除く】** …… 32
草巻付き防止ワイヤU金具内部
【E・SE・K・センタドライブ仕様除く】… 32
シールの組換え …… 32

付表 …… 33
主要諸元 …… 33
標準付属品 …… 33
アタッチメント一覧表 …… 34
主な消耗部品一覧表 …… 36

⚠ 安全に作業するために

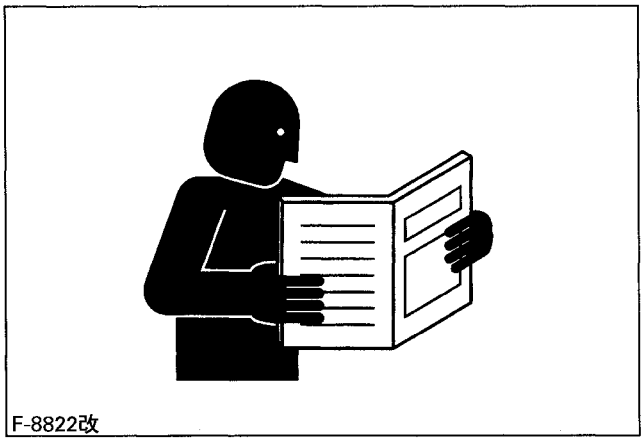
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．ロータリを使用する前に

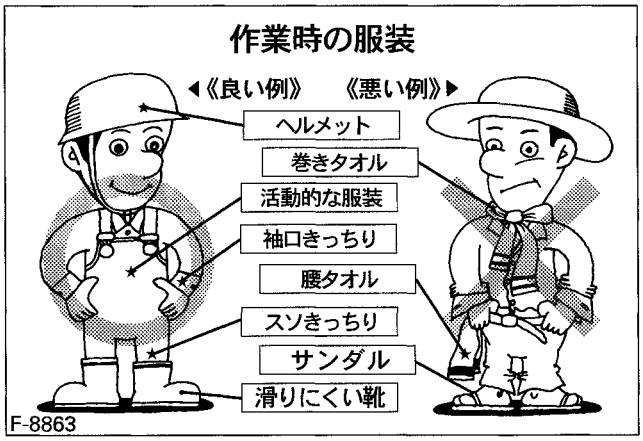
(1)ロータリを使用する前に必ず，この取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書，及び，機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で作業してください。

(2)ロータリを他人に貸すとき，また，他人に作業を依頼するときは，事前に操作のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対に作業させないでください。


F-8822改

(4)ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じて使ってください。



F-8863

2．ロータリの着脱時

(1)PTOを中立にして平坦な場所で行なってください。

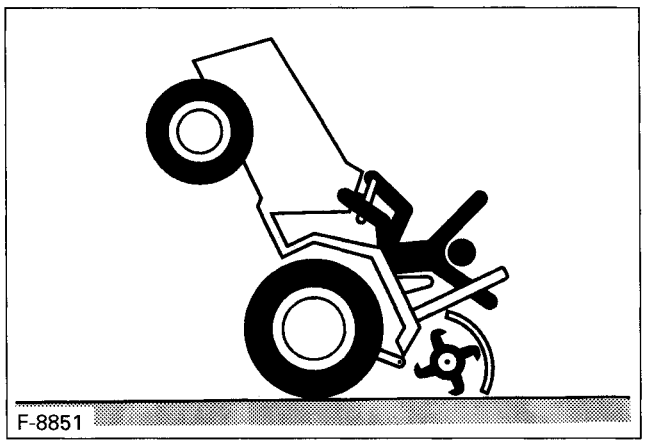
(2)トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
挟まれるおそれがあります。

F-8848

(3)二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。

(4)2点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが確実にセットされていることを確認してください。

(5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
前輪が浮上がり事故の原因になります。


F-8851

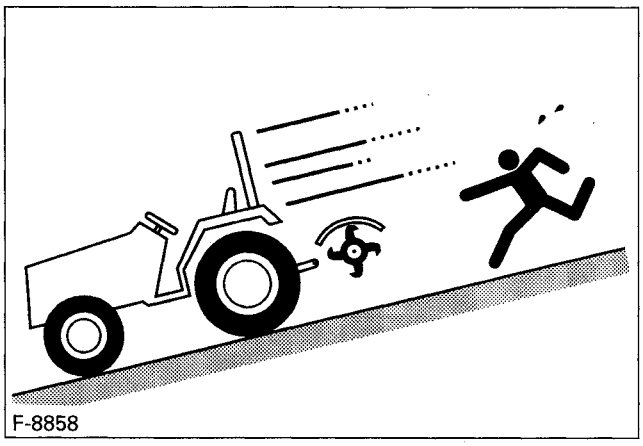
⚠ 安全に作業するために

3．耕うん爪の点検や交換及び調整時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。

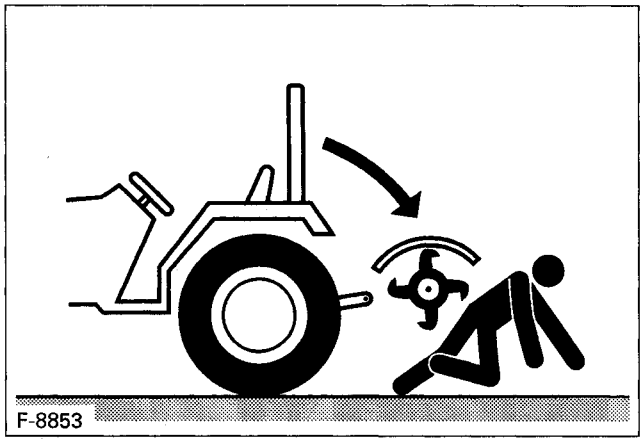
(2)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。

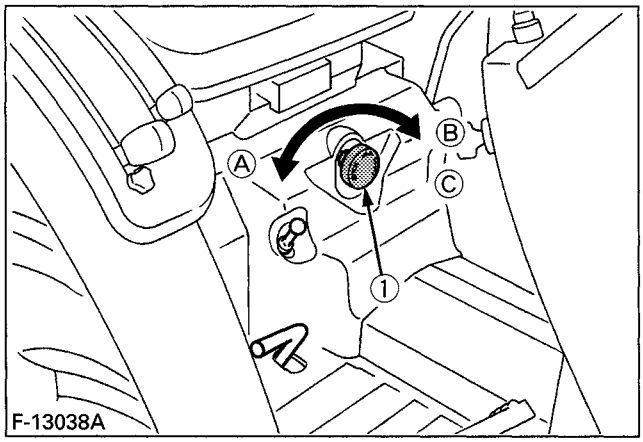
トラクタが動き出すおそれがあります。



(3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。

ロータリが落下するおそれがあります。





①落下速度調整グリップ　Ⓐ“速い”
Ⓑ“遅い”
Ⓒ“停止”

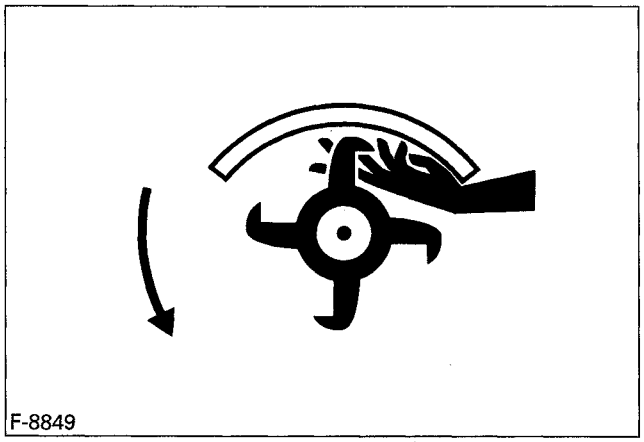
4．運転時

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり損傷した場合，交換してください。

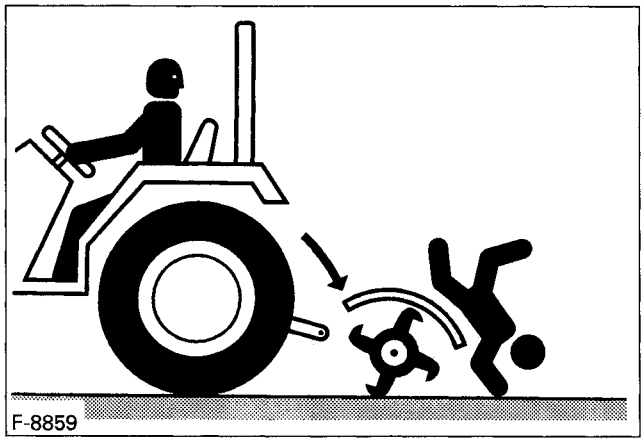
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

(2)ユニバーサルジョイント，爪軸等回転部分には近づかないでください。

裂傷・巻込まれ等，事故のおそれがあります。

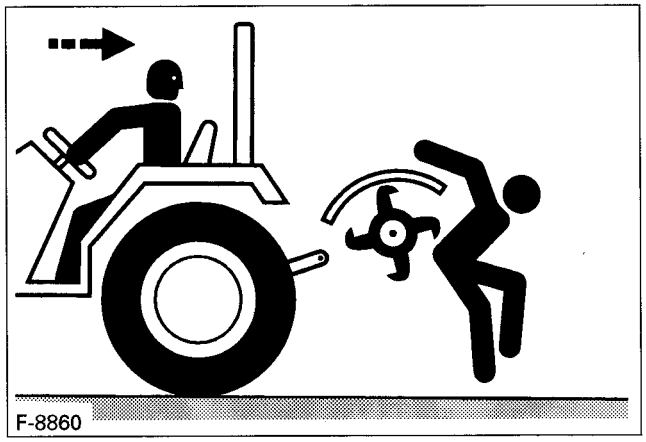


(3)ロータリの上に人を乗せないでください。

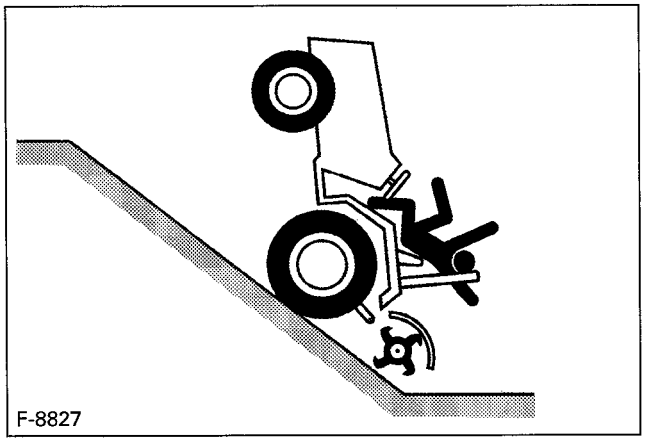


(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

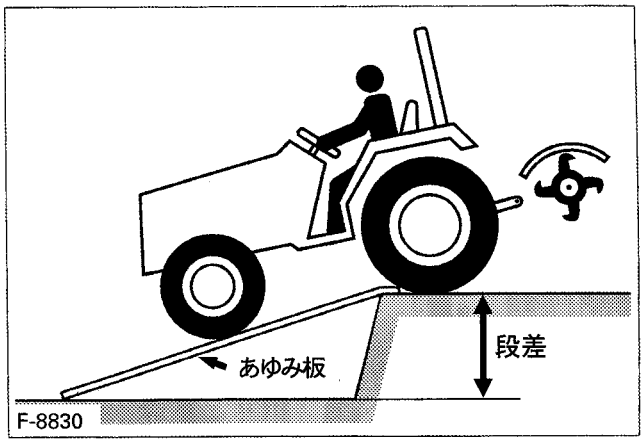
(5)ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。



(6)傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。

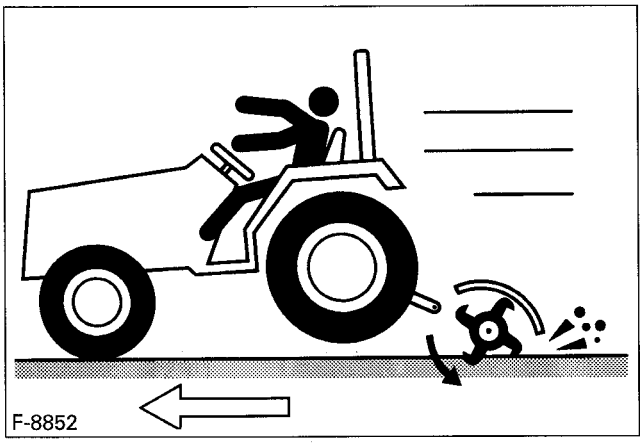


(7)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



あゆみ板は段差の4倍以上の長さのものを使用してください。

(8)耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切り，ブレーキを踏んでください。次に，より遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
2輪駆動，4輪駆動の切り換え可能なトラクタは，4輪駆動にしてください。

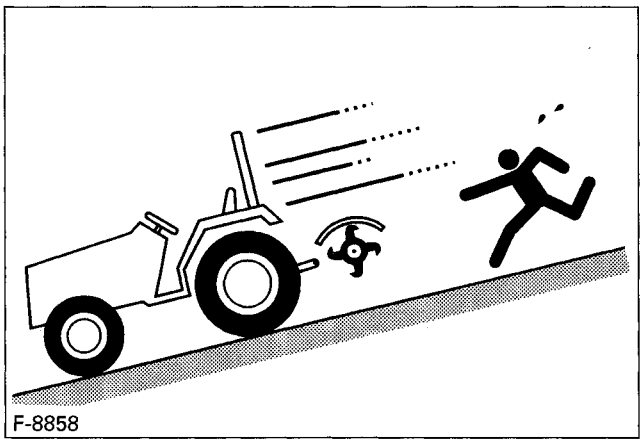


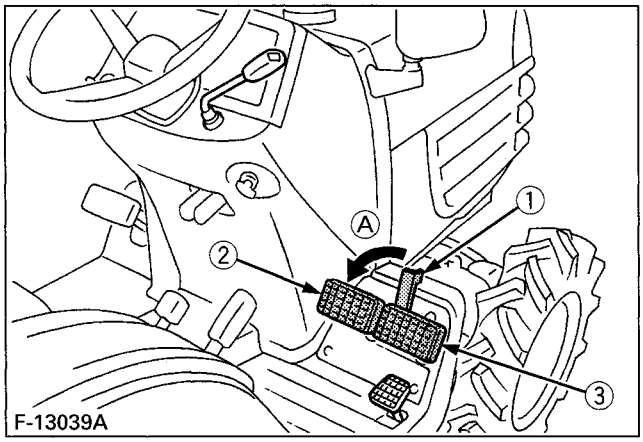
(9)ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

⚠ 安全に作業するために

5．格納時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。
(2)ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
(3)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。


F-8858

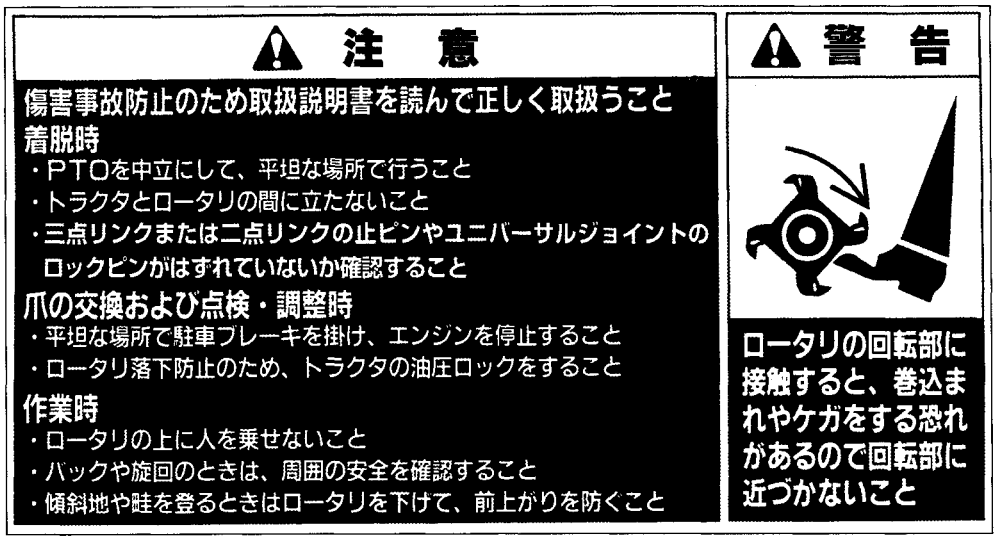


F-13039A

①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ"道路走行時は必ずかける"

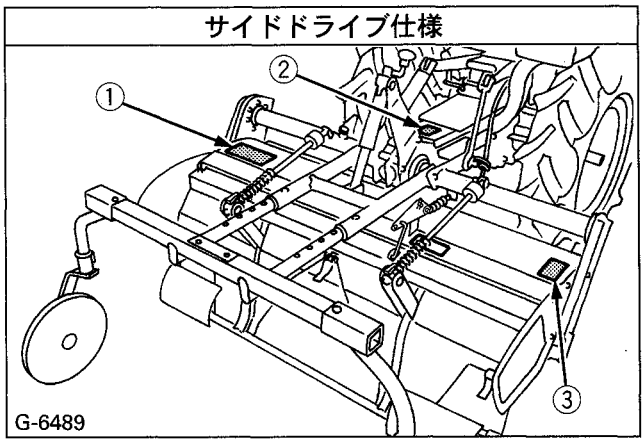
6．▲表示ラベルと貼付位置

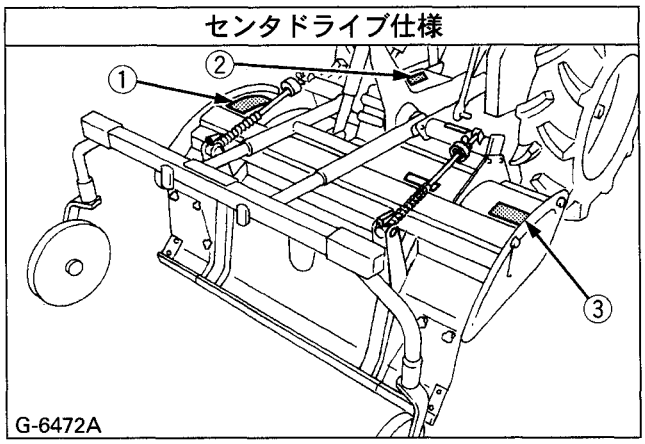
① 品番 7C705-5646-2



② 品番 7C705-5881-1

③ 品番 7F712-5613-1





7．▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，ロータリ名称と機械番号を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

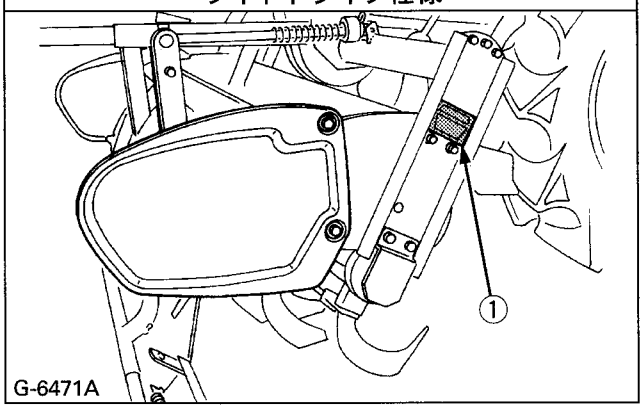
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

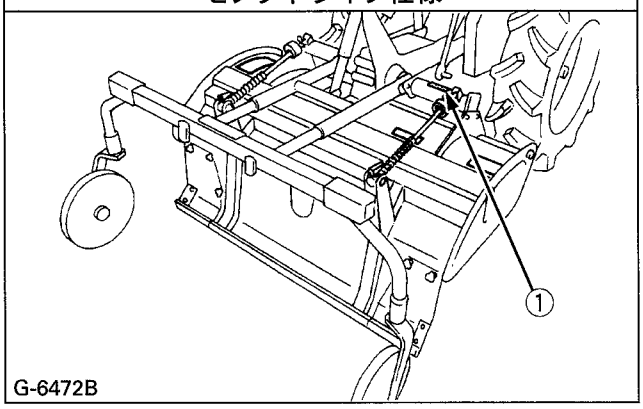
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

サイドドライブ仕様



センタドライブ仕様



①ロータリ名称・機械番号

ロータリの着脱のしかた

注 意

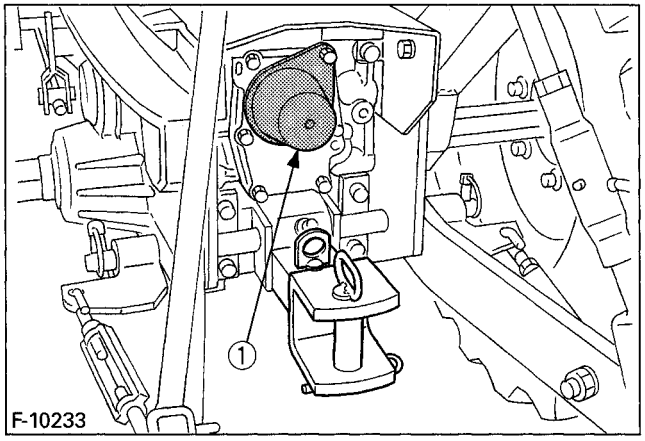
＊ロータリの取付け・取外しは，平たんな場所を選び，トラクタとロータリの間には立たないでください。又，連結部品を着脱する場合はエンジンを止めて駐車ブレーキを掛けてください。

＊ロータリを外した状態で，PTO軸を回転させないでください。

＊PTO軸を使わない場合は，必ずPTO軸キャップを取付けてください。

＊PTO軸キャップを使わない場合は，大切に保管してください。

（PTO軸キャップは，出荷部品袋に入っています。）



①PTO軸キャップ

■トラクタとの組合せ

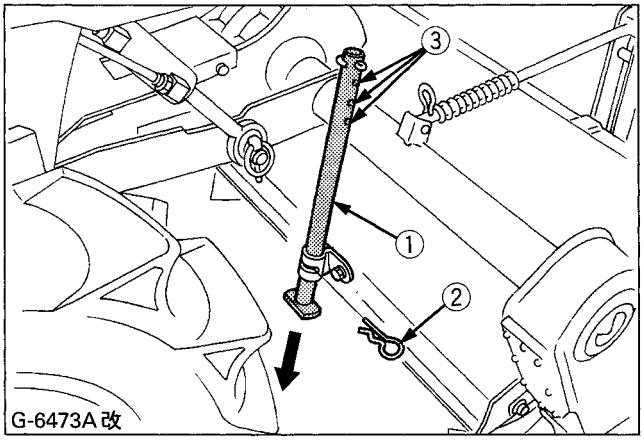
トラクタ		GB110	GB130, GB140, GB150, GB170	GB140-PC GB150-PC GB170-PC
ロータリ	サイド	RS100SE	RS110(E), RS120,RS130, RS140, RS150	RS130-PC RS140-PC RS150-PC
	センタ	RK70-SPB RK80W2-SPB RK110SE	RK70-SPB RK80W, RK80W2-SPB RK110(SE), RK130	—

■ロータリ着脱時の準備

❶後2輪を取付けてください。**【B仕様】**

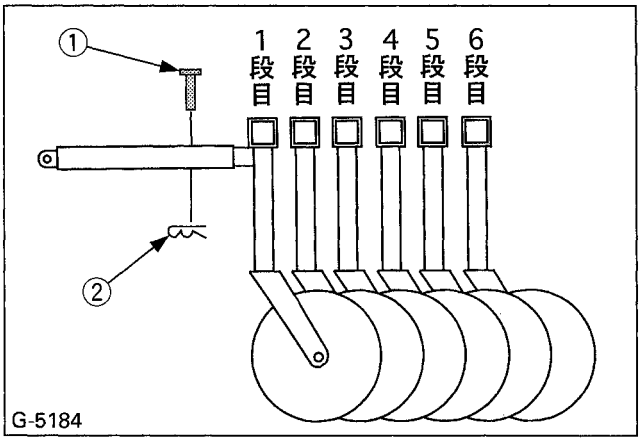
B仕様以外は次表を参考にスタンドをセットしてください。

トラクタ		スタンドのセット穴位置
GB110	RS100SE	一番上
	RK110SE	上から3番目
GB130, GB140		上から2番目
GB150, GB170		一番上



①スタンド
②スナップピン
③穴

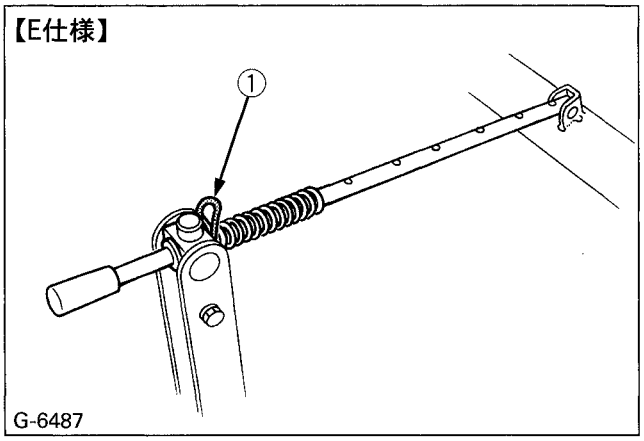
❷後2輪ホルダ２を1番後方(6段目)の穴にセットします。**【B仕様】**



①アタマツキピン
②スナップピン

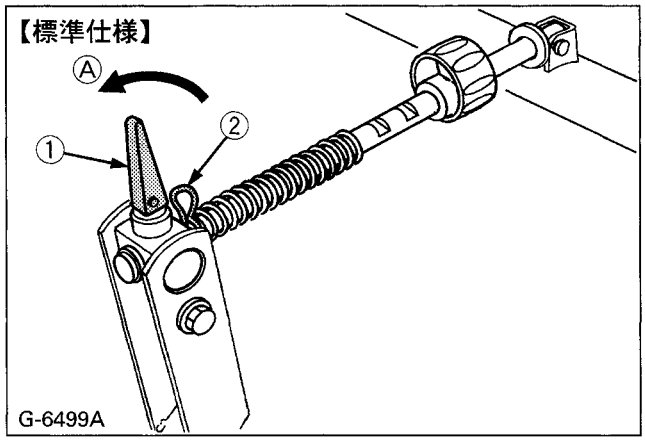
❸ロータリカバー２は最下げにし，ロッドの1番後方の穴にスナップピンをセットしてカバーをロックします。(作業時はフリーの状態にします。)

【B仕様以外】



①スナップピン

標準仕様の場合はオートハンガレバーを**“保持”**の位置にし，スナップピンをセットしてカバーをロックします。
(作業時は**“解除”**にし，スナップピンを抜いてフリーの状態にします。)



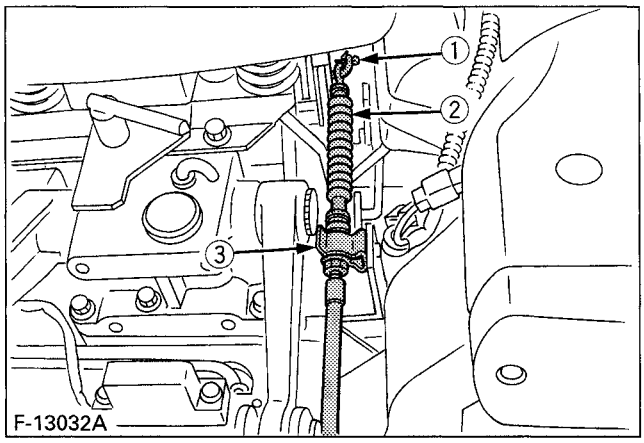
①オートハンガレバー　Ⓐ“保持(自動ロック)”
②スナップピン

■取外し方【トラクタの標準仕様・M仕様】

注　意

＊オートケーブルの着脱はロータリを接地させ，エンジンを停止させてから行なってください。ロータリが下がり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

❶ロータリを油圧レバーで接地させ，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけます。
❷オート耕深レバーを下げ，**“切”**位置にします。
❸オートケーブルを固定金具から外します。
❹スナップピンを外し，オートケーブルの先端をピンから外します。

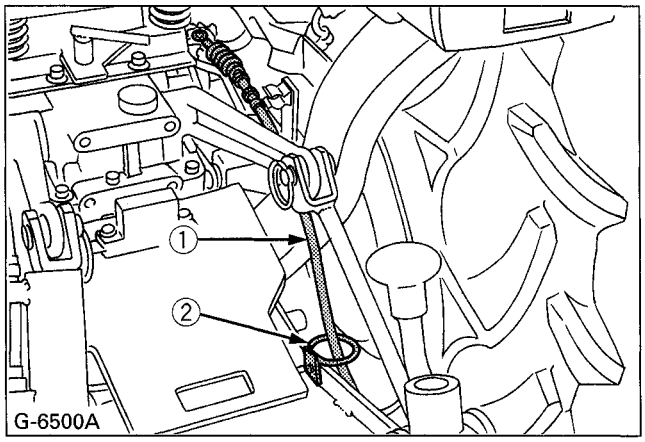


①スナップピン
②オートケーブル
③固定金具

補　足

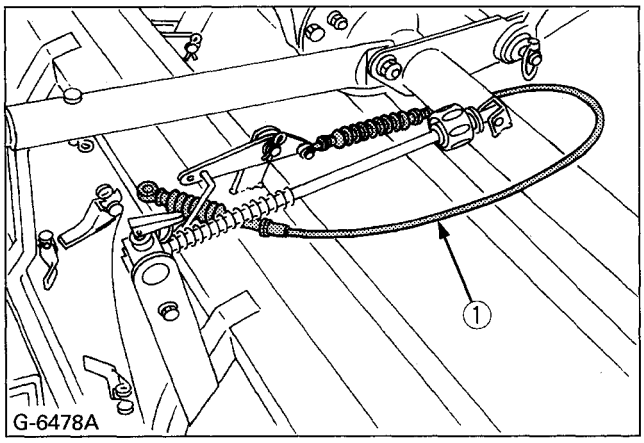
＊外したスナップピン・ケーブルは，紛失したり傷めたりしないよう大切に保管してください。

❺オートケーブルをワイヤガイドから抜きます。



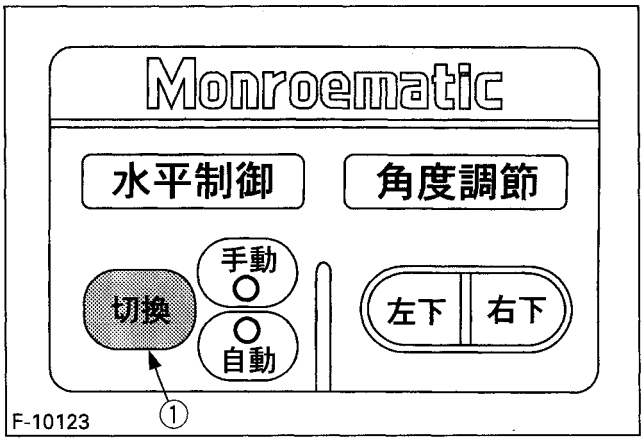
①オートケーブル
②ワイヤガイド

❻オートケーブルをロータリ側に収納します。



①オートケーブル

❼ロータリを最上の位置で水平制御切換スイッチを**“手動”**にします。**【M仕様】**

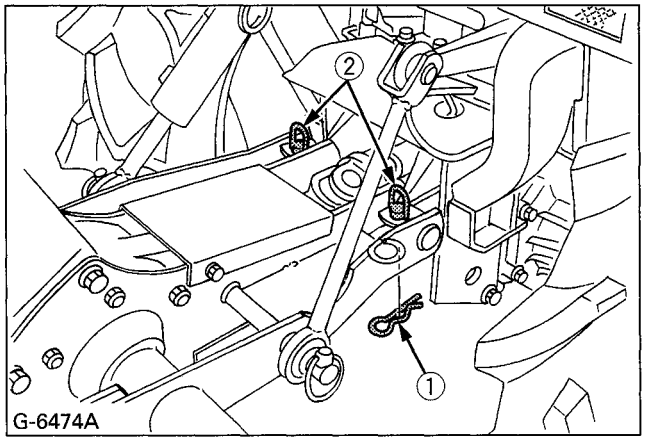


①水平制御切換スイッチ

❽油圧レバーでロータリを耕うん爪の先端が，地上から約10㎝の位置になるまで降ろします。

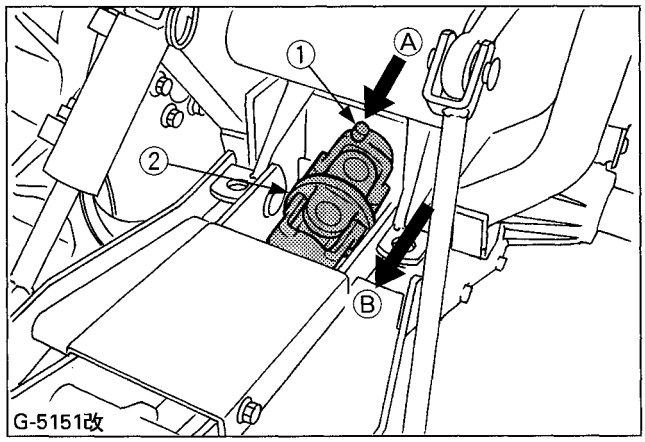
❾エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけて落下速度調整グリップで油圧ロックします。

❿ベータピンを抜き，ロータリレンケツピンを抜きます。



①ベータピン
②ロータリレンケツピン

⓫ジョイントロックピンを押え込みながら，ロータリ側へジョイントを引抜きます。



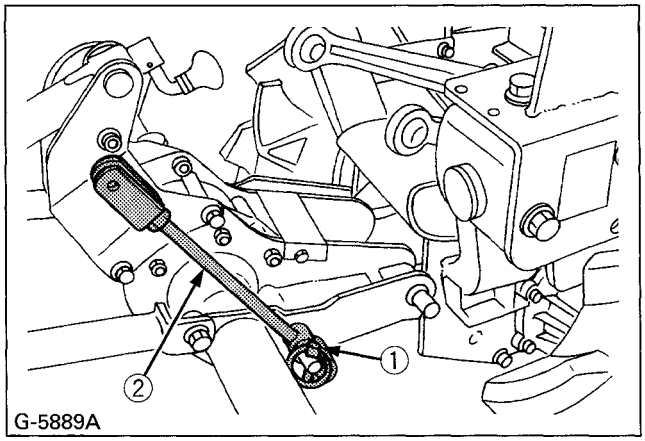
①ジョイントロックピン　Ⓐ“押込む”
②ジョイント　Ⓑ“引抜く”

補　足

＊ジョイントを引抜いた状態では，ジョイントはロータリ側の軸に差込まれたままになりますが，ロータリを下向きにすると脱落するので，紛失しないよう注意してください。

⓬落下速度調整グリップで油圧ロックを解除し，ロータリの爪を油圧レバーで接地させます。

⓭スナップリングを抜いて，トラクタのリフトアームからリフトロッドを外します。**【GB110のみ】**

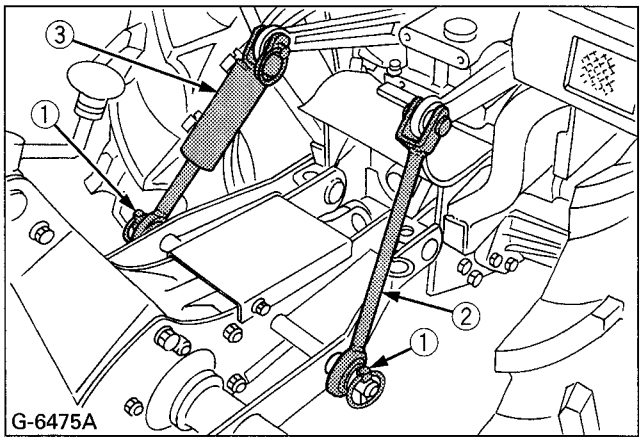


①セットピン
②リフトロッド

⓮セットピンを抜いて，ロータリからリフトロッド及びリフトシリンダ**【M仕様】**を外します。

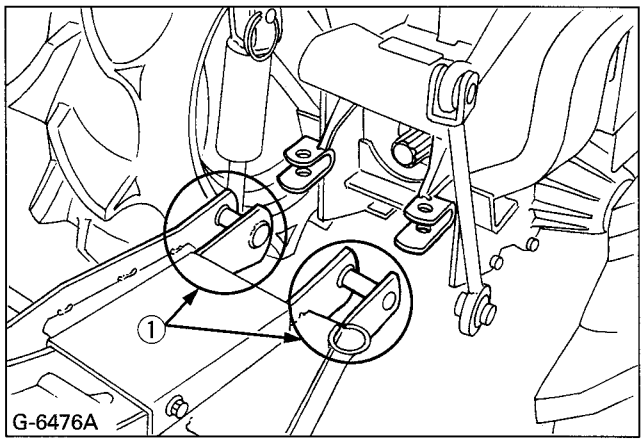
補　足

＊外れにくい場合は後2輪ハンドルを少し回すと外れやすくなります。**【B仕様】**



①セットピン
②リフトロッド
③リフトシリンダ**【M仕様】**

⓯トラクタをゆっくり前進させてロータリを取外します。



①サポート(ロータリ)のアーム部先端

⓰フロントスタンドを立てて，後方はロータリカバー2をロックしてロータリを支えます。

【標準仕様・E・SE仕様】

■取付け方【トラクタの標準仕様・M仕様】

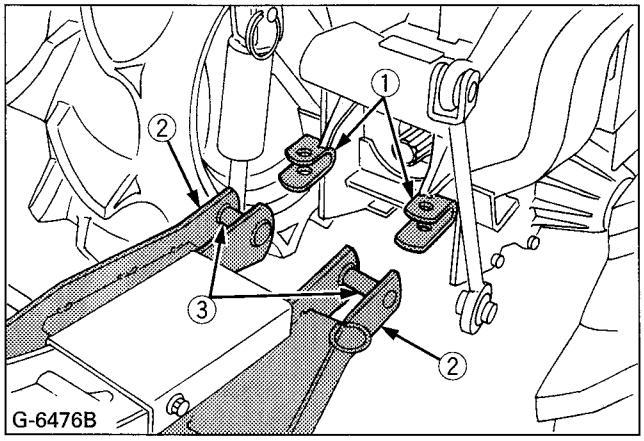
注　意

＊オートケーブルの着脱はロータリを接地させ，エンジンを停止させてから行なってください。ロータリが下がり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

取外しと逆の方法で行ないます。

❶トラクタの取付け部が，ロータリの取付け部と接近するまで，トラクタを後進させて駐車ブレーキをかけます。

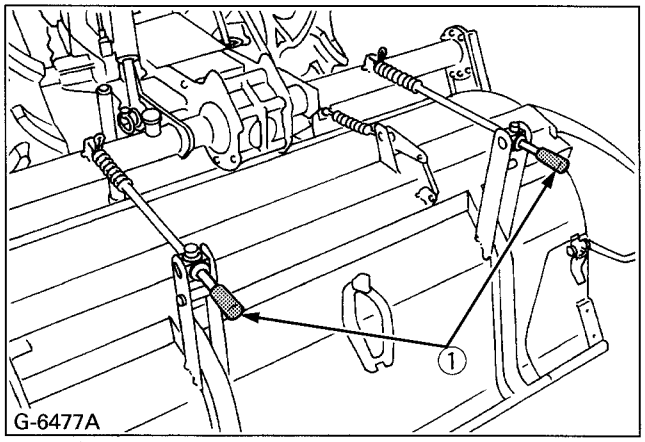
❷2点リンクブラケットのU金具部に，ロータリアームの支点ピンを合せ，ロータリを押して入れます。



①U金具部
②ロータリアーム
③支点ピン

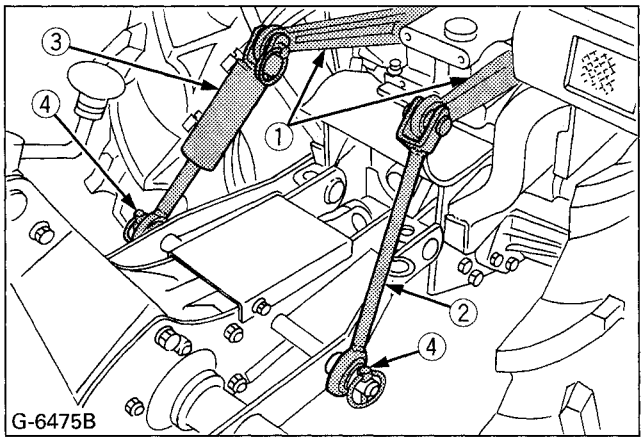
補　足

＊後2輪ホルダ2**【B仕様・標準仕様】**，ロッドのグリップ**【E・SE・K仕様】**を持つと取付けやすくなります。



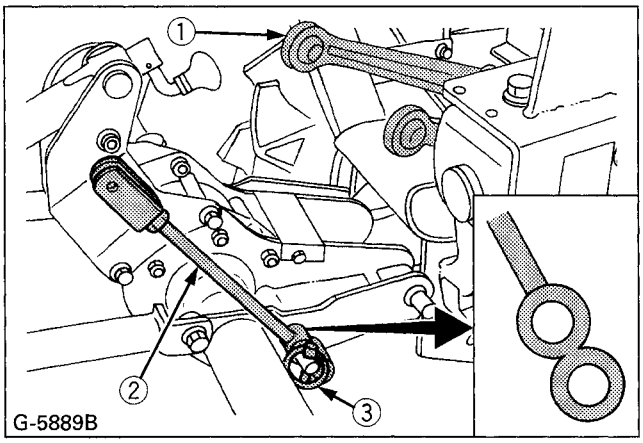
①グリップ

❸油圧レバーで，リフトアームをいっぱい下げ，リフトロッド及びリフトシリンダ【M仕様】をセットピンでロータリに止めます。【GB110以外】



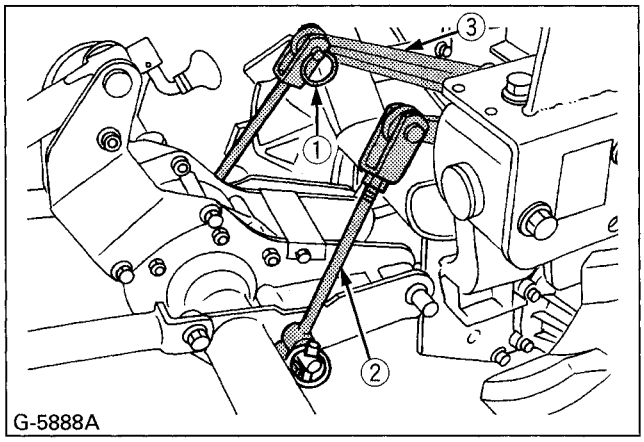
①リフトアーム
②リフトロッド
③リフトシリンダ【M仕様】
④セットピン

❹油圧レバーで，リフトアームをいっぱい下げ，リフトロッドの上側のパイプをセットピンでロータリに止めます。【GB110】



①リフトアーム
②リフトロッド
③セットピン

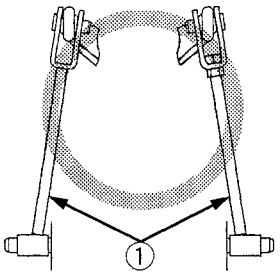
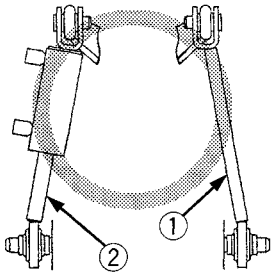
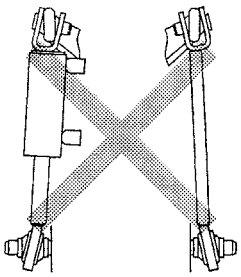
❺リフトロッドをトラクタのリフトアームに取付け，スナップリングで止めます。【GB110】



①スナップリング
②リフトロッド
③リフトアーム

補　足

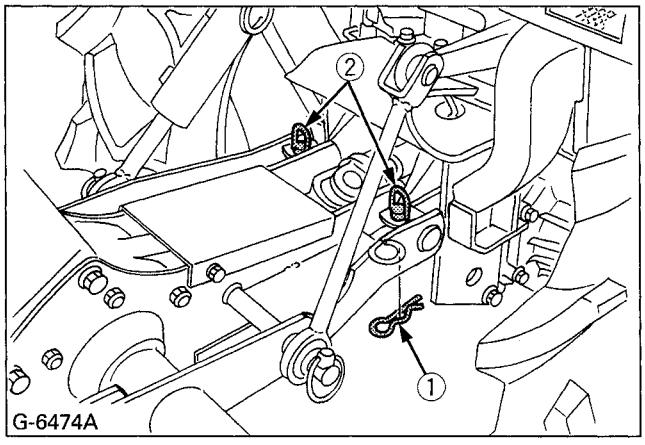
＊リフトロッドとリフトシリンダがトラクタ後方から見て下図の形状になっているか確認してください。

	標　準　仕　様	M　仕　様
正しい装着方法		
誤った装着方法	装着できません	

G-5603A

①リフトロッド
②リフトシリンダ

❻連結が終ると，油圧レバーで，ロータリを約10cm吊上げてエンジンを停止し，落下速度調整グリップで油圧ロックしてからロータリレンケツピンを差込み，ベータピンで止めます。

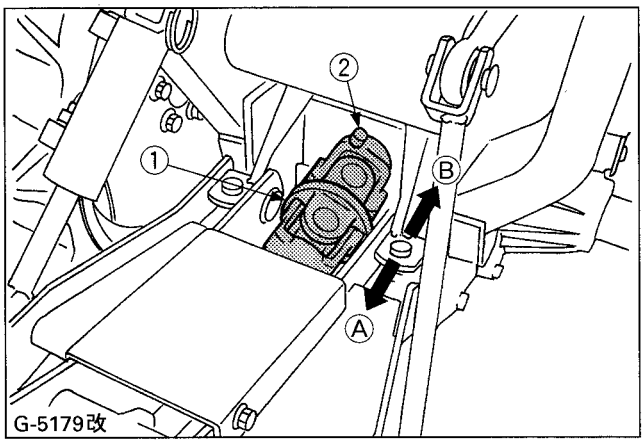


①ベータピン
②ロータリレンケツピン

❼ロータリ側へジョイントをいっぱい引込み，ジョイントロックピンを押えながら，トラクタ側のPTO軸のスプラインに合せて押込み横溝にロックします。

補　足

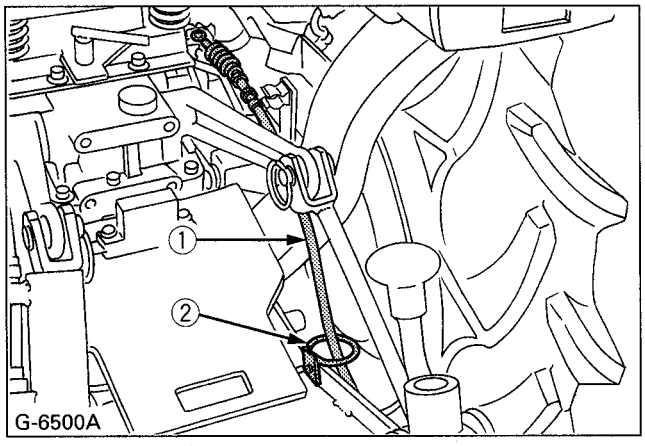
＊ジョイントロックピンが作動しにくいときは，注油すると軽く動きます。



①ジョイント
②ジョイントロックピン
Ⓐ“ロータリ側へいっぱい引込む”
Ⓑ“PTO軸の横溝にロックする”

❽エンジンは停止したままで，オート耕深レバーを下げ**“切”**位置にします。

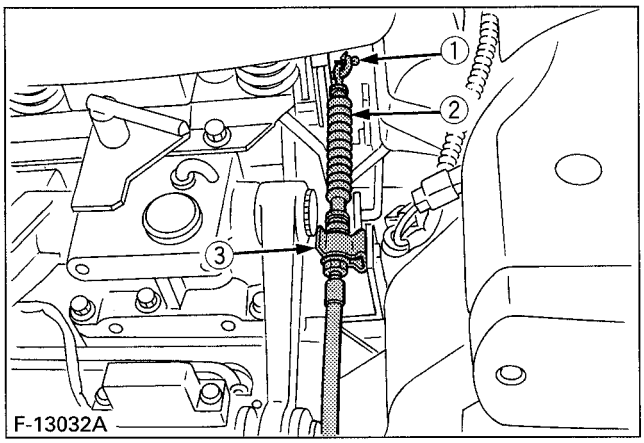
❾オートケーブルをワイヤガイドに通します。



①オートケーブル
②ワイヤガイド

❿オートケーブルの先端をピンに差込み，スナップピンで抜け止めします。

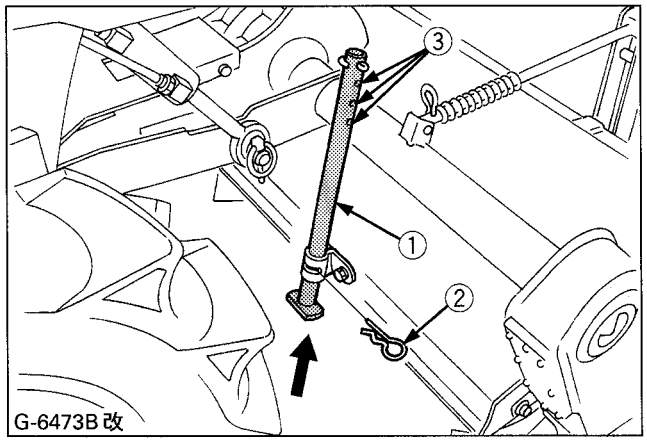
⓫オートケーブルを固定金具に挿入します。



①スナップピン
②オートケーブル
③固定金具

⓬ロッドの１番前方の穴にスナップピンをセットしロータリカバー２を最下げ位置にします。

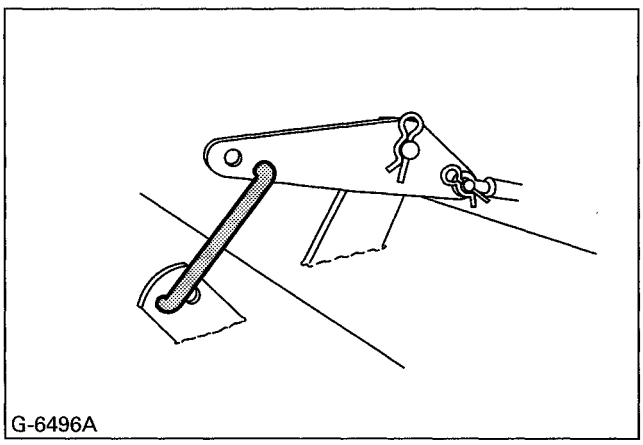
⓭スタンドを格納します。**【B仕様以外】**



①スタンド
②スナップピン
③穴

補　足

＊オート切換レバーは出荷状態で下図標準位置にセットされております。オートの感度を下げたい場合は他の穴の組み合わせも可能ですが，購入先にご相談ください。



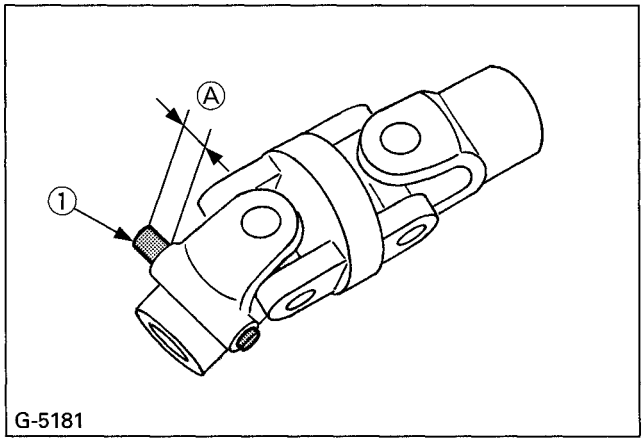
G-6496A

＊長期間保管するときや洗車後は，必ず一度ユニバーサルジョイントを取外し，泥や土を取除き，①ロータリ側入力軸，②ジョイントのしゅう動部にグリースを塗布してください。

＊M仕様のロータリ取付け後は水平制御切換スイッチを**“自動”**にしてください。

警　告

＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7㎜以上出ているか確認してください。



G-5181

①ロックピン　　Ⓐ**“7㎜以上出ているのが正常です”**

ロータリの上手な使い方

警　告

＊ロータリのユニバーサルジョイントと，耕うん爪に接触すると巻込まれ等の死傷事故のおそれがあります。回転中は近づかないでください。
＊必ず座席に座って，ロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。
＊ロータリの上に人を乗せたり，運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。転落，巻込まれなど，重大事故の原因になります。

注　意

＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

適応作業速度

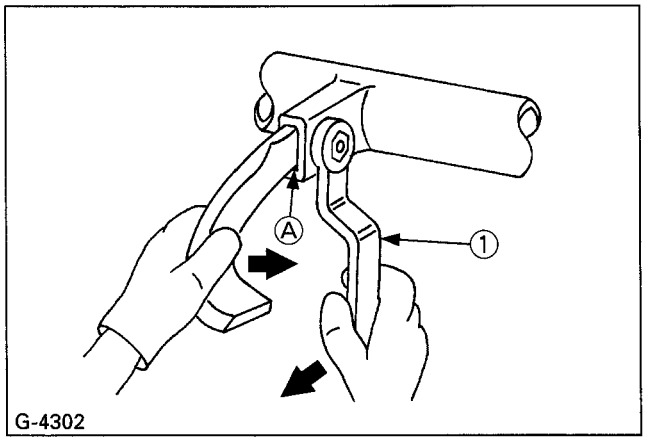
作業目的と耕作地の条件に合せて，車速を決めてください。
下表は，作業のめやすとして参照してください。

変速レバー位置と作業			
PTO / 車速	1段	2段	逆転
低-1速	水田畑作（荒起し 畝立て）	水田畑作（細土耕うん 一般耕うん 畝立て）	土寄せ
低-2速			
低-3速			
高-1速	代かき作業		

なた爪の取付け方

注　意

爪の交換及び増締めするときは，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎのことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊落下速度調整グリップを，右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。
＊ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。



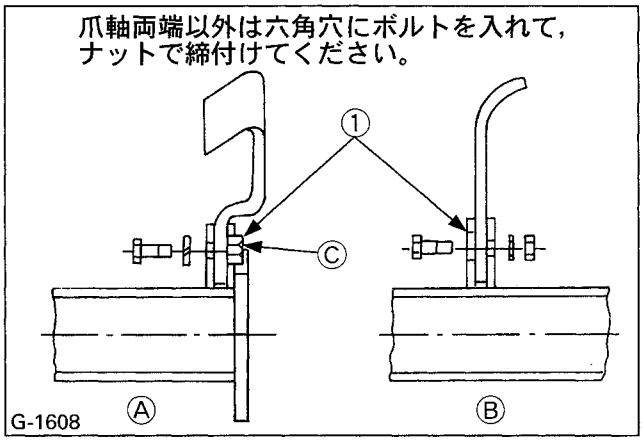
G-4302

①17×19めがねレンチ　Ⓐ“爪を押さえてこのすき間をなくす”

補　足

＊めがねレンチで，力いっぱい締付けてください。
【締付けトルク7840～8820N・cm(800～900kgf・cm)】
（めがねレンチをナットやボルトの頭に確実に差込み，外れないように注意してください。）

■サイドドライブ仕様



①爪軸ブラケット六角穴　Ⓐ爪軸両端の取付け
Ⓑ爪軸両端以外の取付け
ブラケットの六角穴と逆方向に曲がりがくるように組付ける。
Ⓒ六角穴にナットを入れてボルトで締付ける。

〔サイドドライブロータリ〕

爪軸両端で白ペンキを塗ったブラケット	白ペンキを塗っていないブラケット
332号爪	331号爪

■草巻付き防止ワイヤ
【センタドライブ，E・SE・K仕様を除く】

重　要

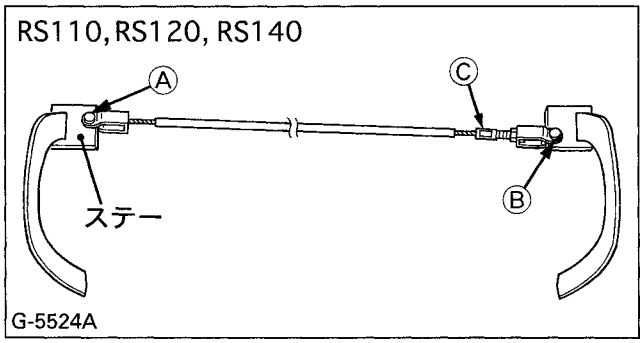
＊石の多いほ場では，草巻付き防止ワイヤの使用を控えてください。
＊ワイヤが損傷した場合は，すみやかにワイヤを新品に交換してください。但し，被服している樹脂が摩耗もしくは切損しても使用は可能です。
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。
＊普通爪を使用する場合は，ステーが脱落するので草巻付き防止ワイヤは絶対使用しないでください。
＊カマなどでワイヤを傷つけないでください。

◆草巻付き防止ワイヤの取付け方

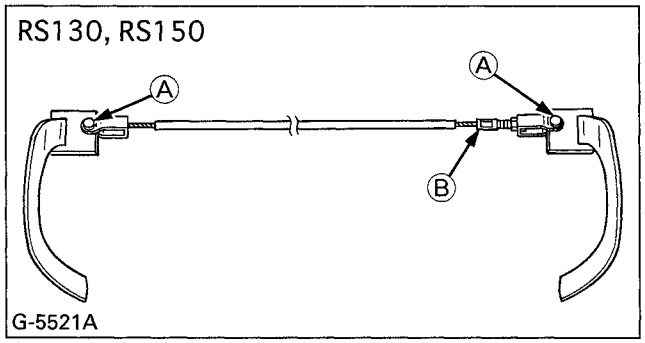
❶爪軸両端の爪(計4本)を外し，ワイヤ両端のステーの四角穴に以下の表と図を参照して爪を差込んでください。
下表は，爪軸正転方向に対するステーの丸穴の位置を示します。表中の(　　)内は，332号爪に取付けるステーの丸穴の位置を示します。

ロータリ形式	チェーンケース側	サイドフレーム側
RS110,RS120,RS140	前(前)	後(後)
RS130,RS150	前(前)	前(前)

またワイヤには左右の方向があり，以下の図のようにネジ側をサイドフレーム側に取付けてください。



Ⓐ"前側"　Ⓑ"後側"　Ⓒ"ネジ側"



Ⓐ"前側"　Ⓑ"ネジ側"

＊332号爪も上表の指示通りに取付けます。

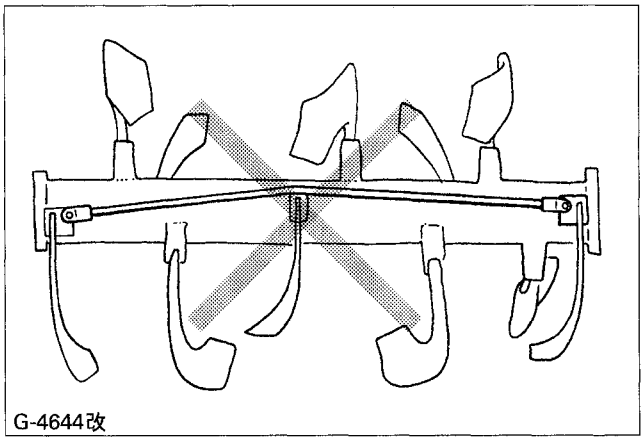
重　要

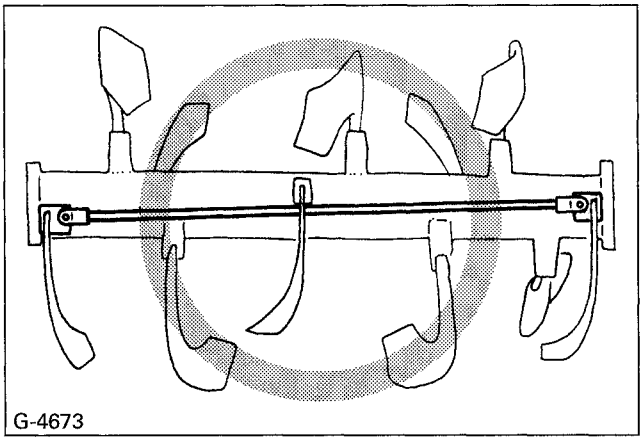
＊ステーの取付け方法を間違うと，ワイヤが取付かなかったり，ワイヤを損傷することがあります。

❷ステーを差込んだ爪をチェーンケース側の爪ブラケットに取付け，ワイヤが一直線になるようにして，もう一方の爪をサイドフレーム側の爪ブラケットに取付けます。

重　要

＊ワイヤが爪やブラケットに接触していないか確認してください。正しい位置に取付けられている場合，ワイヤは爪軸両端部に取付けられたステーの丸穴を結び一直線になります。もし，下図のように爪やブラケットに接触したまま取付けますと，ワイヤを損傷するおそれがあります。


G-4644改

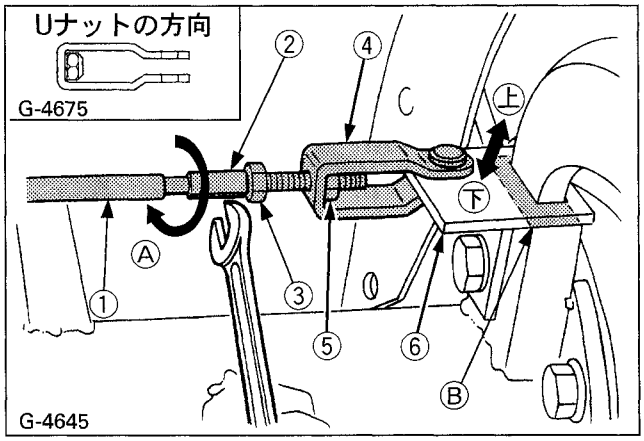

G-4673

❸4つのステーを次の位置にします。

331号爪側→爪先端方向いっぱいにずらせた位置
(矢印㊤方向)

増幅爪側→爪ブラケット入口面に接触する位置
(矢印㊦方向)

ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめ，ワイヤのネジの四角かしめ部に付属のスパナ(M8)をかけ，ねじを締め込んだ後，ロックナットで固定します。ロックナットはトラクタに付属のスパナ(M12)で締込んでください。



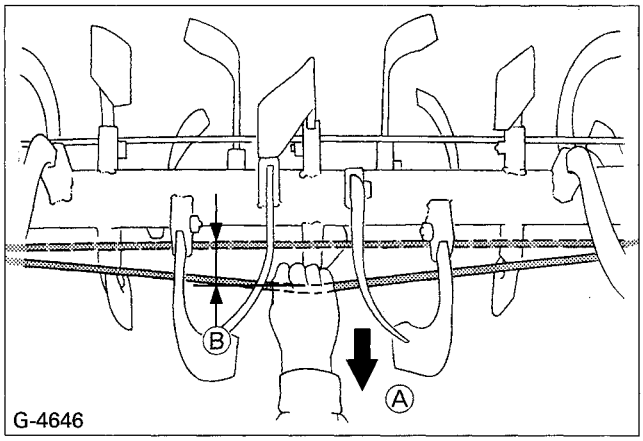
①ワイヤ
②四角かしめ部
③ロックナット
④U金具
⑤Uナット
⑥ステー
Ⓐ"締込む"
Ⓑ"爪ブラケットの入口面"

重　要

＊ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから，必ず付属のスパナ(M8)で行なってください。ロックした状態での増し締めや他の工具を使用しますと，破損するおそれがあります。

＊ワイヤの調整は必ず❹の手順でたわみ量を確認しながら行なってください。そのとき締付トルクが880N･cm(90kgf･cm)(参考値)をこえないようにしてください。

❹爪軸の中央付近で，ワイヤを爪軸に対して直角方向に約98N(10kgf)の力で引いたとき，ワイヤが元の位置から1.5cmたわむ程度に調整してください。



Ⓐ“爪軸に対し直角方向に約98N(10kgf)の力で引く”
Ⓑたわみ1.5cm

注 意

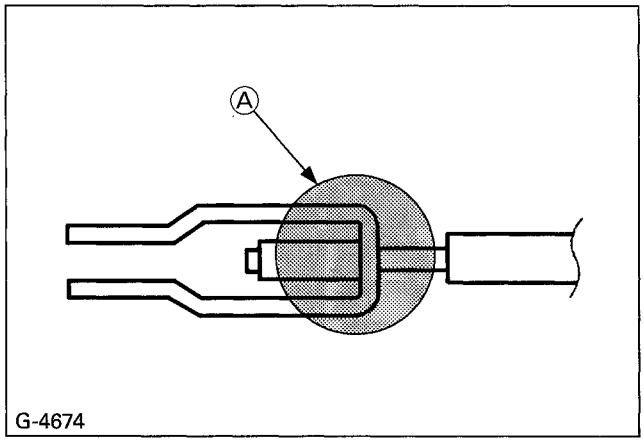
傷害事故防止のため，草巻付き防止ワイヤの調整時は次の事を守ってください。

＊ワイヤを引くときはゆっくり引き，ワイヤに体重をかけて引かないでください。

重 要

＊耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は，❸❹の手順でワイヤを調整してください。ワイヤを調整するときは，ネジ部に付着した土などを洗い流し，ネジ部に注油してください。ゆるんだまま使用すると，草巻付き防止ワイヤの効果が少なくなり，ワイヤを損傷するおそれがあります。

＊ロータリの使用後，特に長時間使用しないときは，ワイヤの図示箇所を洗浄後注油してください。



Ⓐ“注油”

補 足

＊ワイヤの調整時や着脱時に，ある程度ワイヤが張ってくると，スパナで締めてもワイヤのネジが元に戻ることがあります。そのときは，ロックナットでロックしながら調整してください。

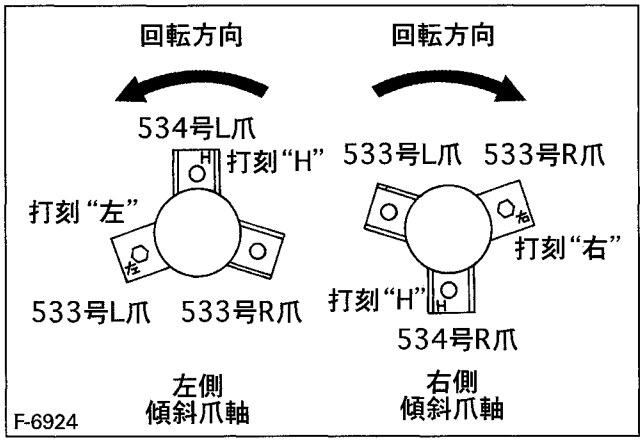
◆草巻付き防止ワイヤの取外し方

取付け方の逆の手順で行なってください。

■センタドライブ仕様

◆傾斜爪軸

(1)**"H"**の刻印のあるブラケットには，534号L・R爪を内向きに取付けてください。



F-6924

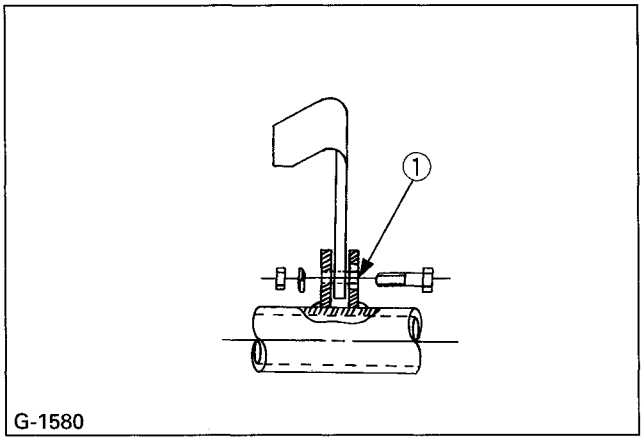
(2)残りのブラケットには，533号L・R爪を上図のように取付けてください。

◆爪軸

(1)321号爪を取付けます。

(2)ブラケットの六角穴と逆方向に，曲がりがくるようにして取付けてください。(但し，白ペンキを塗ったブラケットはその逆に取付けてください。)

(3)ボルトは六角穴側より入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。



G-1580

①六角穴

補　足

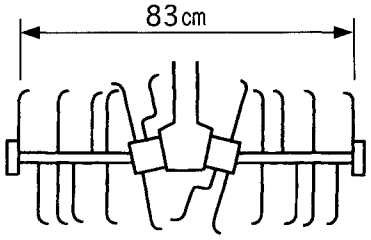
＊爪を抜いて作業すると，爪のバランスが狂い，振動や騒音がでることがありますので，ご注意ください。

＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

■耕幅調節

◆RK80W・RK80W2・RK110(SE)・RK130

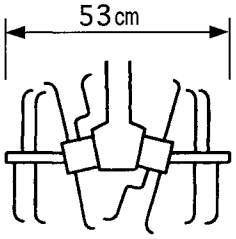
爪軸の延長部を取外すことにより耕幅を83cmにできます。



F-6889

◆RK70-SPB

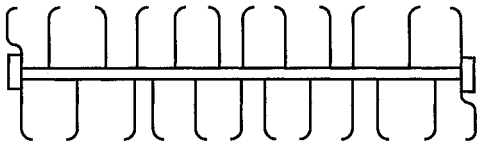
付属の爪軸に交換することにより耕幅を53cmにできます。



F-6889改

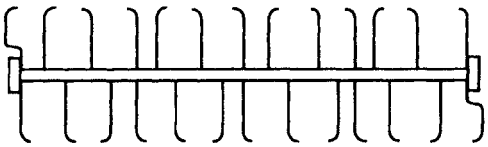
■均平耕法の配列

◆RS100SE



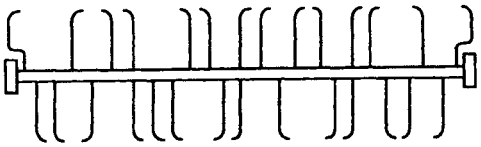
G-5305

◆RS110(E)



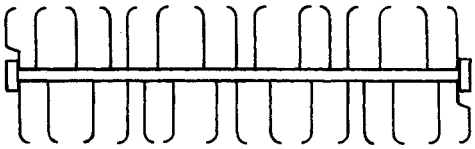
F-6877

◆RS120



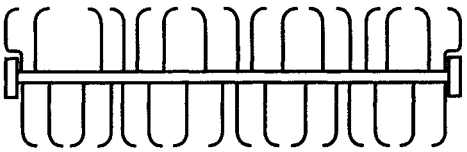
F-6878

◆RS130



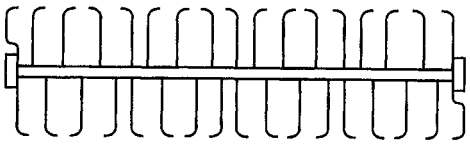
G-6490

◆RS140



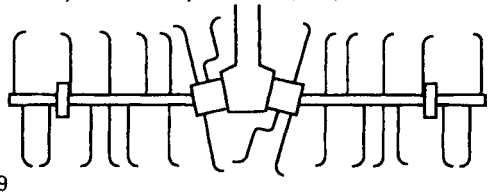
F-6994

◆RS150



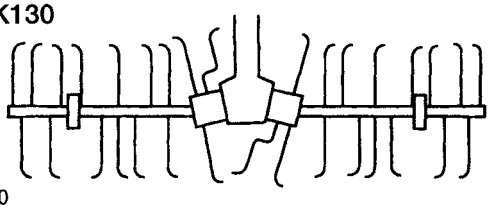
G-5308

◆RK80W, RK80W2, RK110(SE)

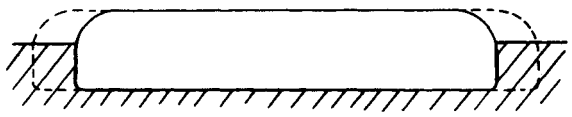


F-6879

◆RK130



F-6880



G-1583

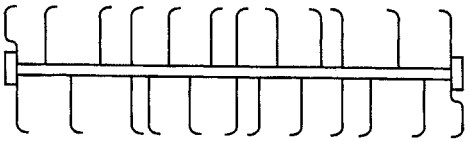
(点線は延長爪軸付きの場合を示す。)

■1つ盛り耕法の配列

爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。

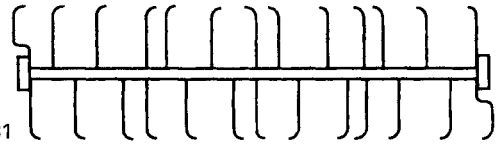
このとき，ロータリカバー2を上げて，カバーが耕うんした土壌を整地しないようにします。

◆RS100SE



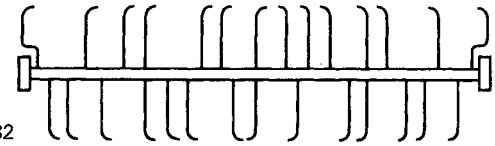
G-5306

◆RS110(E)



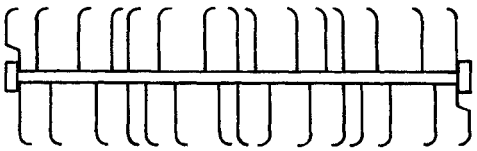
F-6881

◆RS120



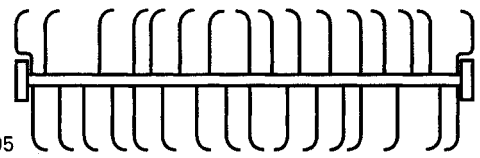
F-6882

◆RS130



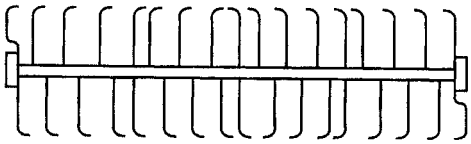
G-5186

◆RS140



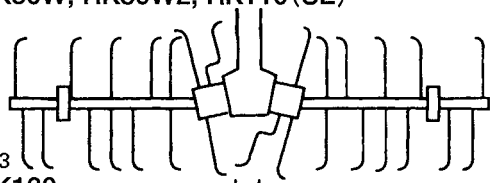
F-6995

◆RS150



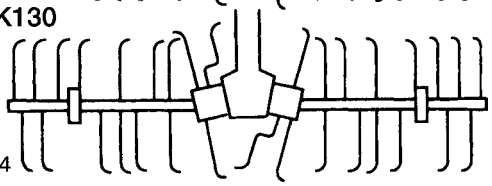
F-5309

◆RK80W, RK80W2, RK110(SE)

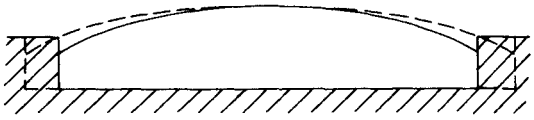


F-6883

◆RK130



F-6884



G-1586

補　足

＊1つ盛り耕法で土の抱き込みが生じる場合には，抱き込む箇所の爪向きを変更してください。

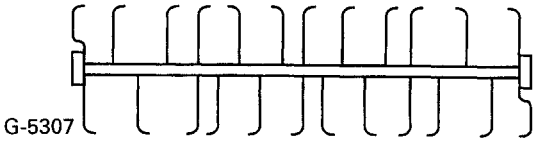
■２つ盛り耕法の配列

〔畝立て作業（１連畝立て）の配列〕

爪の配列は下図のように取付けてください。

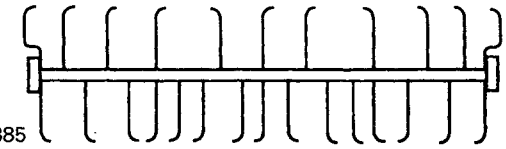
このとき，ロータリカバー２を上げて，カバーが耕うんした土壌を整地しないようにします。但し、Ｖカバーで畝立てする場合は整地します。

◆RS100SE



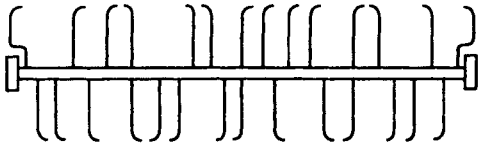
G-5307

◆RS110(E)



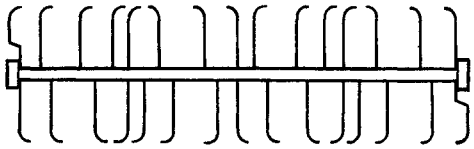
F-6885

◆RS120



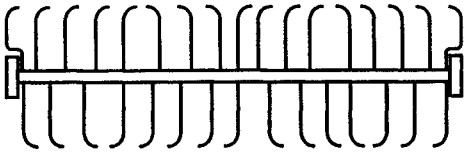
F-6886

◆RS130



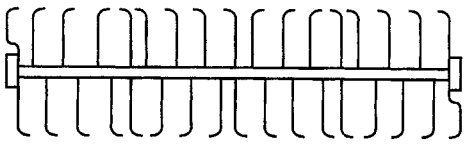
G-5187

◆RS140



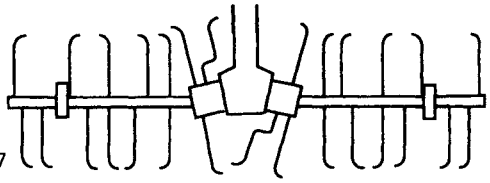
F-6996

◆RS150



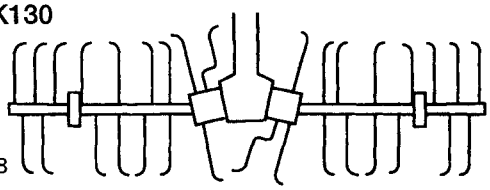
G-5310

◆RK80W, RK80W2, RK110(SE)

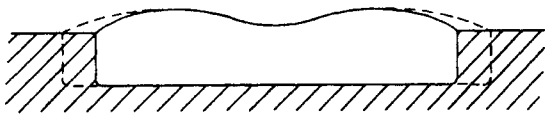


F-6887

◆RK130



F-6888



G-1589

補　足

＊２つ盛り耕法で土の抱き込みが生じる場合には，抱き込む箇所の爪向きを変更してください。

ロータリの調整

注　意

ロータリ各部の調整・着脱・交換をするときは，障害事故を引起こすおそれがありますので，つぎのことを守ってください。

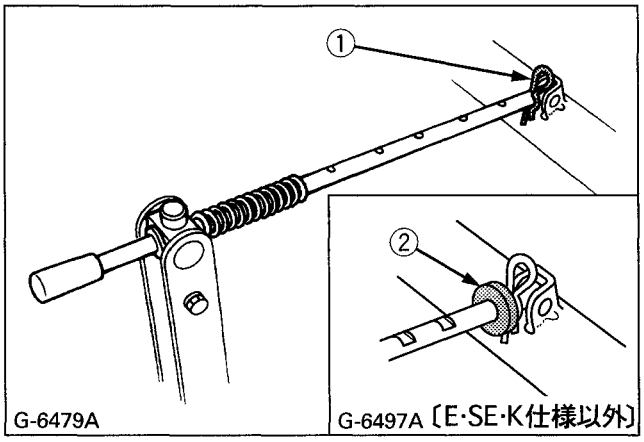
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊落下速度調整グリップを，右いっぱいに回し，ロータリの落下防止をする。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

ロータリカバーの調整

■スナップピンの位置
【RK80W2-SPB, RK70-SPBは除く】

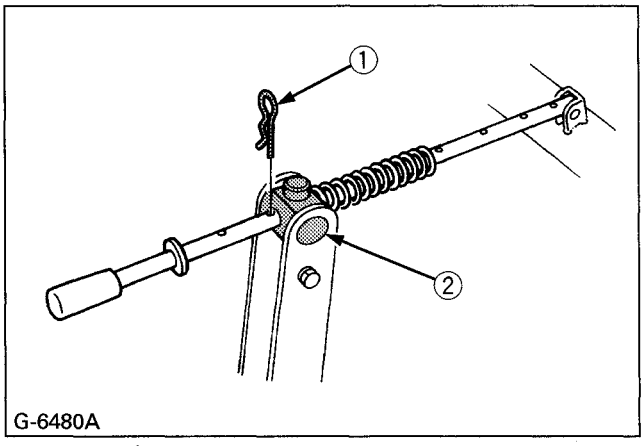
スナップピンは通常一番前のロッド穴にセットしてください。E・SE・K仕様は整地押付け圧に合わせてロッド穴をお選びください。(前から1番目，2番目，3番目…と取付け位置を後方に下げるにつれ押付力は強くなります。)

● 押付力を強くしますと，均平，整地に効果があります。



①スナップピン
②クッションゴム

特殊な作業やE・SE・K仕様での爪交換等のときはカバーを持上げて，スナップピンをピンより後方のロッド穴にセットしてください。



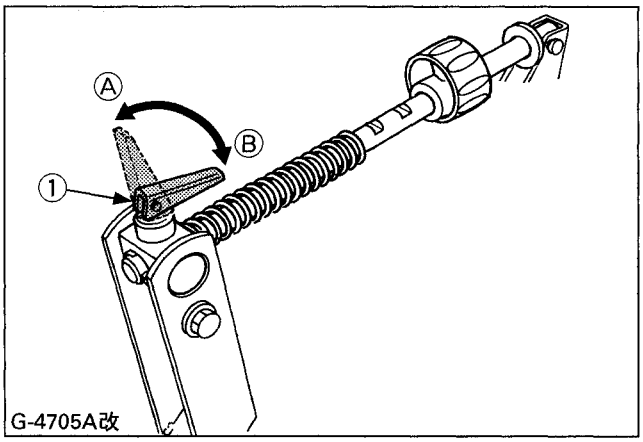
①スナップピン
②ピン

オートハンガの調整【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB, RK70-SPBを除く】

注 意

＊オートハンガの操作は，傷害事故を引起こすおそれがありますので，ロータリを降ろしエンジンを停止してから行なってください。

耕うん爪の点検・交換等を行なう場合，オートハンガレバーを左右2箇所とも**"保持"**(自動ロック)の位置にし，ロータリカバー2を持上げると，自動的にロータリカバー2がロックされます。

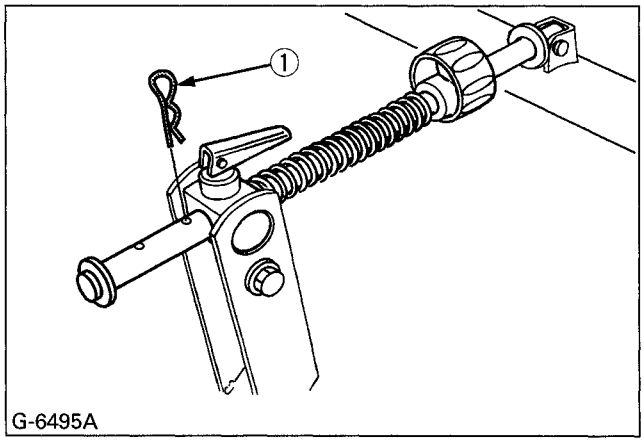


①オートハンガレバー　Ⓐ"保持(自動ロック)"
Ⓑ"解除"

重 要

＊耕深制御(メカオート)使用時は：
"解除"位置にし、ロータリカバー2をフリーにしてください。

＊ロータリカバー2を上げて作業を行なう場合はオートハンガを使用せずにスナップピンを使用してカバーを保持してください。



①スナップピン

補 足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，レバー部とピン部に十分注油してください。

スプリングロックの調整【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB, RK70-SPBを除く】

注 意

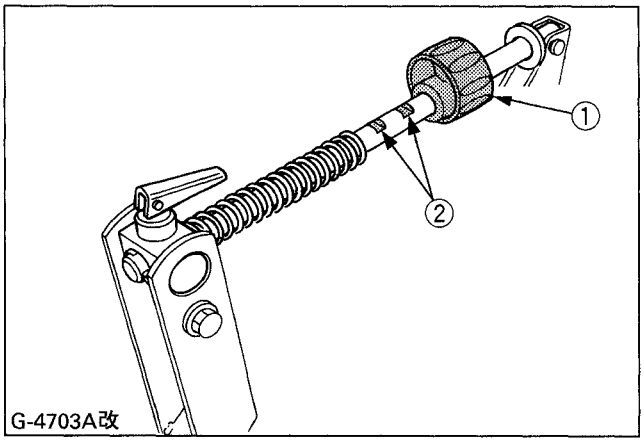
＊スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。ロータリが急降下し傷害事故を引起こすおそれがあります。

＊スプリングロックを操作するときは，必ずスプリングロックの握り部だけを持って操作してください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

＊スプリングロックを操作するときは，ロータリカバー2を最下げにしてください。スプリングが押付けられた状態のときは，しっかりとグリップを握って操作してください。途中で手をはなすと，グリップが上方へいきおいよく飛出し危険です。

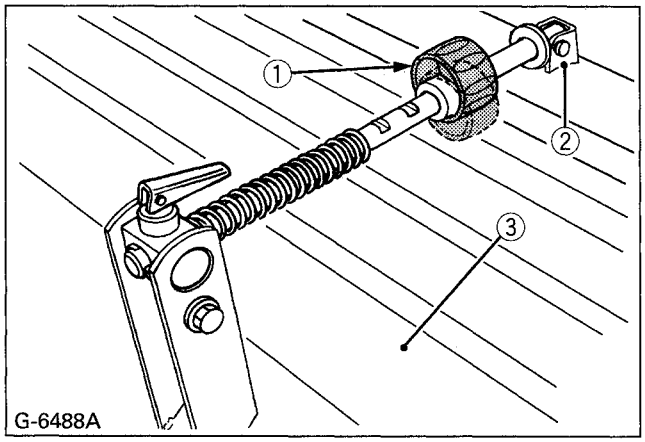
◆スプリングロックの位置

接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。
(前から1番目，2番目……とセット位置を後方に下げるにつれ，押付力は強くなります。)
通常は前から1番目の溝にセットしてください。



①スプリングロック
②ロッド溝

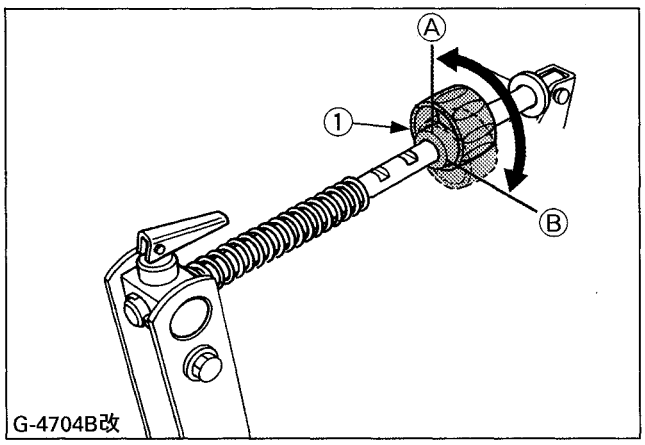
特殊な作業，爪の交換等ロータリカバー2を持上げて使用する場合は，溝から外しロッド受け部まで移動させてください。



①スプリングロック
②ロッド受け
③ロータリカバー2

◆スプリングロックの位置決め

❶スプリングロックを約90度回し、ロックを解除させます。



①スプリングロック　Ⓐ“ロック”
Ⓑ“解除”

❷その状態でスプリングロックを希望位置まで移動させます。

❸スプリングロックを元の位置まで回し、少し上下に摺動させて確実にロックします。（カチッと音が鳴り、上下に動かない位置がロック位置です。）

補　足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，しゅう動部に注油してください。

重　要

＊ロータリカバー2を持上げるときは，当り位置以上に持上げないでください。

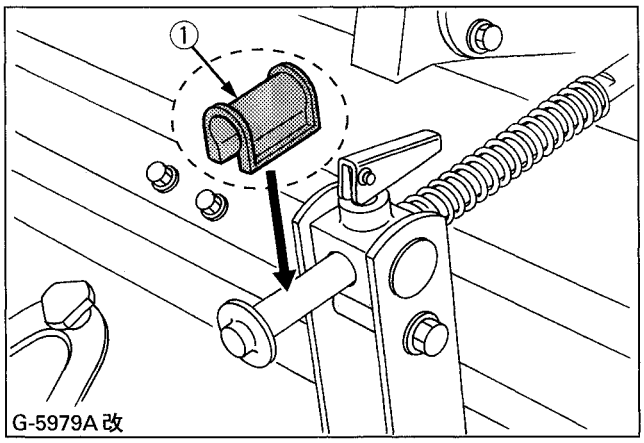
＊オート作業時はスプリングロックを前から１番目の溝にセットしてください。
セット位置を後方に下げるとオートが作動しにくくなります。

■ロッドスペーサの使用法【PC仕様】

ロッドスペーサの着脱により，ロータリカバー２の調整が可能です。

●一般耕うん
●培土作業
●ロータリの着脱時
} ロッドスペーサ使用

●代かき作業時　} ロッドスペーサ取外し



①ロッドスペーサ

重　要

＊代かき作業時以外はロータリカバー２が破損することがあるのでロッドスペーサを使用してください。

補　足

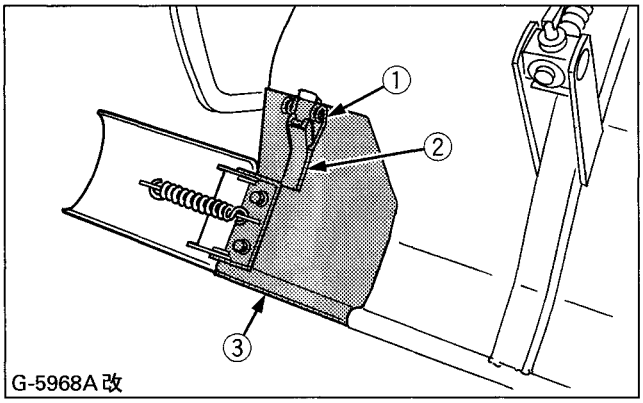
＊ロッドスペーサを取外したとき，紛失しないように保管しておいてください。

■補助カバーR・Lの取外し方【K仕様除く】

後2輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をする場合は，補助カバーを外してください。

【サイドドライブ仕様】

クリップを引上げ，バネをロータリカバー2のかけ金具から取外してください。

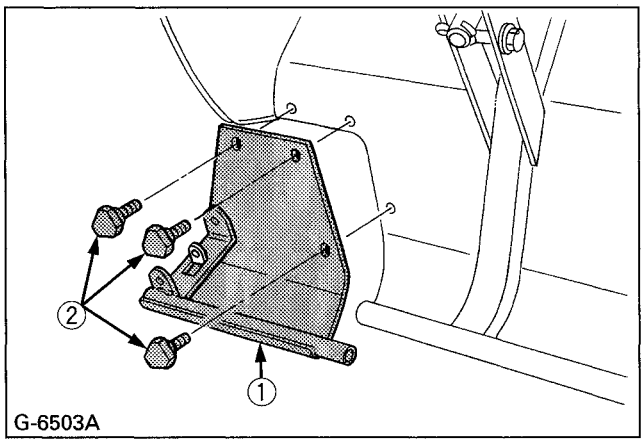


G-5968A改

①バネ
②クリップ
③補助カバー

【センタドライブ仕様(RK80W2-SPB，RK70-SPBは除く)】

ノブボルトを取外してください。



G-6503A

①補助カバー
②ノブボルト

補　足

＊補助カバーを取外したとき，ノブボルトを紛失しないように保管しておいてください。

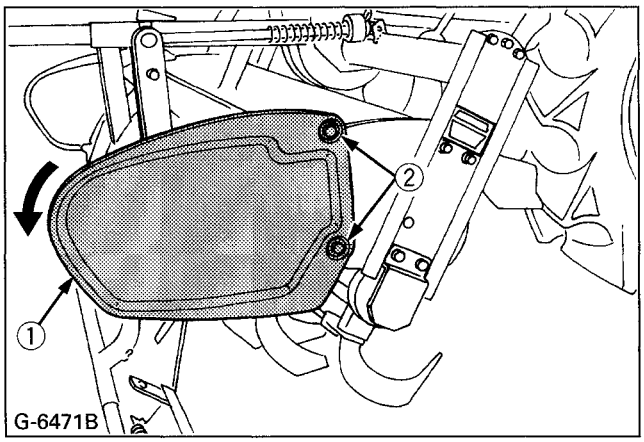
■サイドカバーの上手な使い方

注　意

＊サイドカバー・補助カバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

【サイドドライブ仕様】

浅起こし作業や，サイドカバー下からの土こぼれを防止したい時は，左右のサイドカバーを下げて使用してください。別売の残耕処理爪アッシを使用する場合はサイドカバーを上げて取付けてください。

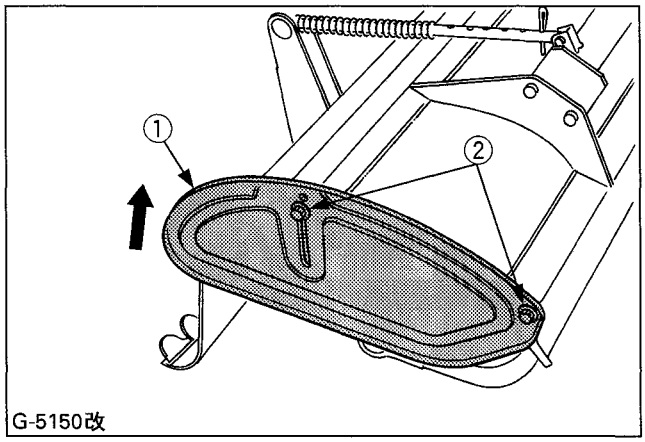


G-6471B

①サイドカバー
②ボルト

【センタドライブ仕様】

石の多いほ場・草地での作業や深起こし耕うんを行なう場合は，左右のサイドカバーを上に上げて使用してください。



G-5150改

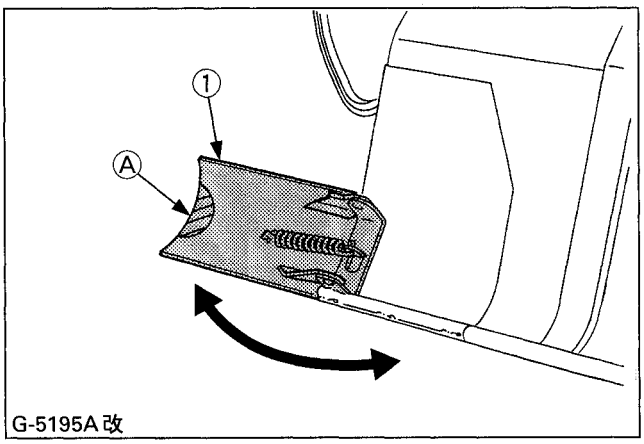
①サイドカバー
②ボルト

■延長カバーの使用法【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB, RK70-SPBを除く】

注 意

＊延長カバーの開閉時、指や手を挟まれないように注意してください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

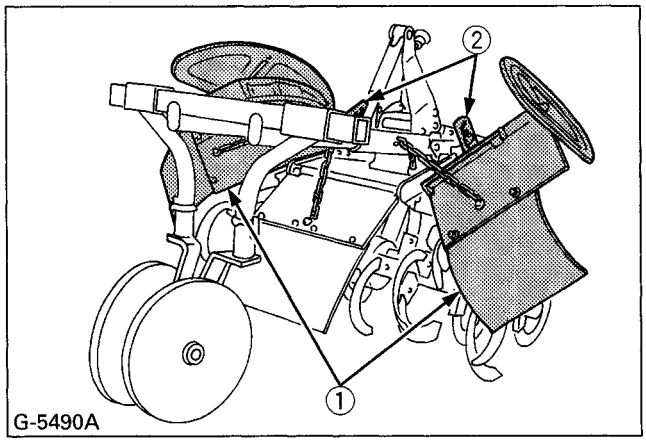
延長カバーを使用すると耕うん跡がきれいに仕上ります。延長カバーの開閉は先端の曲面中央部をつかみ行なってください。



①延長カバー　　Ⓐ"先端の曲面中央部"

■土寄せ(バイド)耕法【RK80W2-SPB, RK70-SPB】

ロータリカバー右，左を下図のように分割し，ロータリカバーをカバー調整ロッドで吊上げてください。



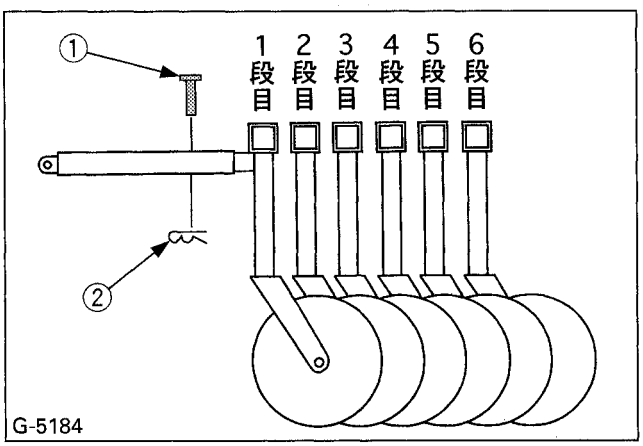
①ロータリカバー
②カバー調整ロッド

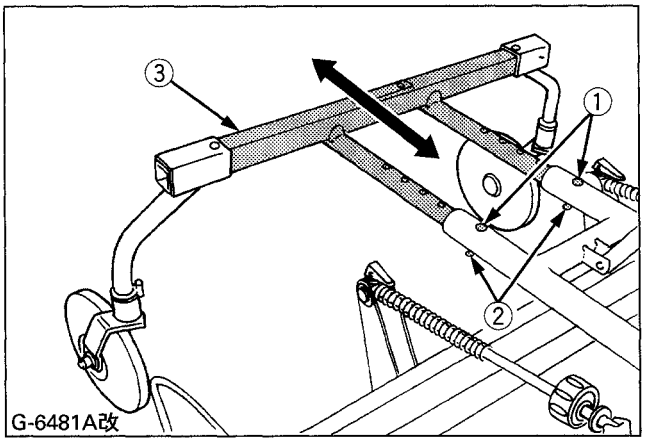
後２輪の調整【B仕様】

後2輪は前後方向に6段階，上下方向に2段階の調整ができますので，作業に合せて調整してください。
作業により次のように調整してください。

作業内容		後2輪の調整	
		前後調整	上下調整
培土作業		1・2段目	上
一般耕うん	補助カバー付	5・6段目	上
	補助カバー無	1段目	上
浅起こし(補助カバー付)		5・6段目	上
代かき(補助カバー付)		5・6段目	下
ロータリを着脱する場合		6段目	上

■後２輪ホルダ２の前後調整





①アタマツキピン
②スナップピン
③後2輪ホルダ2

補 足

＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後2輪はロータリカバー2を上下させて接触しない範囲で，接近させて使用してください。

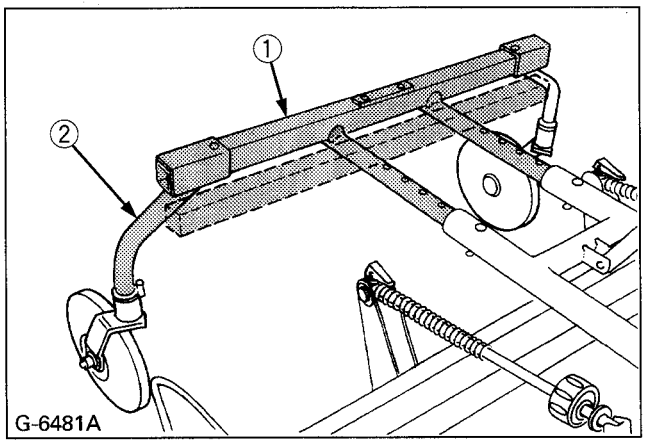
■後２輪ホルダ２の上下調整

注　意

＊後２輪を使用しない場合は取外してください。後２輪を上方に反転させての耕うん・移動は障害事故を引起こすおそれがあります。

＊後２輪ホルダ２を差換える場合は先ず後２輪ポストを後２輪ホルダ２から外して行なってください。障害事故を引起こすおそれがあります。

後2輪装置は，乾田・湿田別によって，後2輪ホルダ２の差換えで取付け高さが変えられます。
湿田，代掻き耕うんの場合は下側に取付け，乾田耕うん・畝立て作業の場合は上側に取付けてください。
差替えたときは，後2輪ポスト左・右も取付けを変更してください。



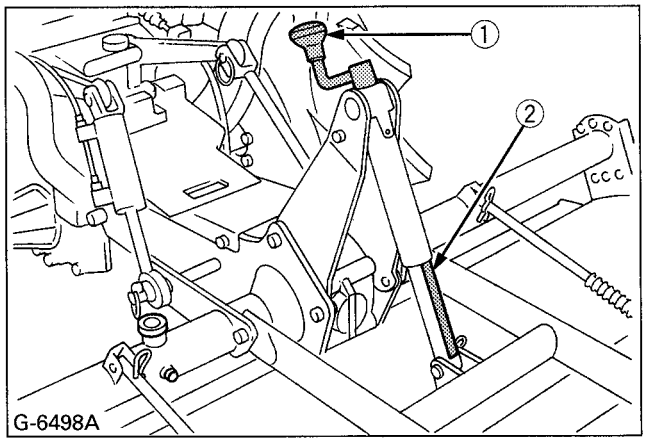
①後2輪ホルダ２
②後2輪ポスト

■後２輪ハンドルによる耕深調整（トラクタA仕様(耕深制御時)除く）

注　意

＊トラクタを移動させながらの耕深調整は，しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

後2輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。また，後2輪ハンドルは前側で止めてください。



①後2輪ハンドル
②耕深ラベル

畝立機の取付け(別売りオプション)

注　意

＊畝立機の取付けは，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。

＊畝立機を使用しない場合は取外してください。畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起こすおそれがあります。

＊畝立機を使用しない場合，Vカバーまたはカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，作業に応じて取付け高さを変え，ボルトで取付けてください。

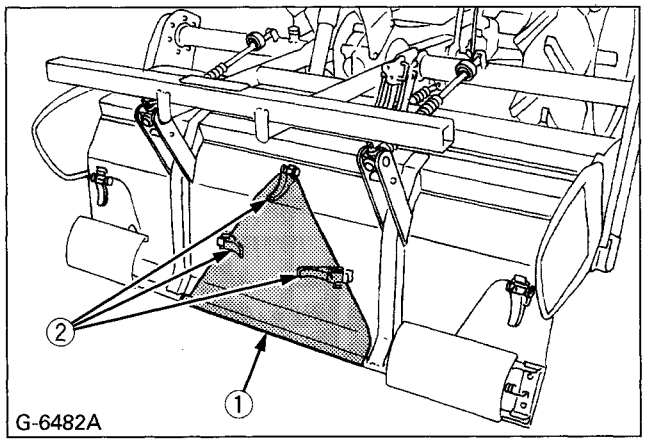
■Vカバー仕様の場合

❶爪の配列は2つ盛り耕法の配列にします。(**“２つ盛り耕法の配列”**の項を参照)

❷後2輪は取外します。

❸後2輪ホルダ２は，前後調整の1及び２段目の位置(**“後２輪ホルダ２の前後調整”**の項を参照)にし，上下調整の上側(**“後２輪ホルダ２の上下調整”**の項を参照)にセットしてください。

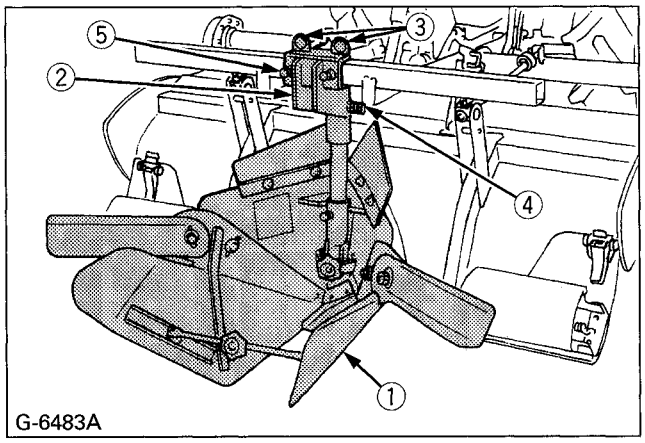
❹クリップを解除し，Vカバーを下方向に動かして取外します。



①Vカバー
②クリップ

❺畝立機に畝立金具をボルトで取付けます。

❻畝立金具を後２輪ホルダ２にピンでセットし，金具背面のボルトを締めてください。



①畝立機
②畝立金具
③ピン
④ボルト
⑤ボルト

❼ロータリカバー押えバネを，フリーにするか又は少し縮めて，ロータリカバー２を軽く地面に接触させてください。

補　足

＊作業状態により畝立機の角度や高さを調整してください。

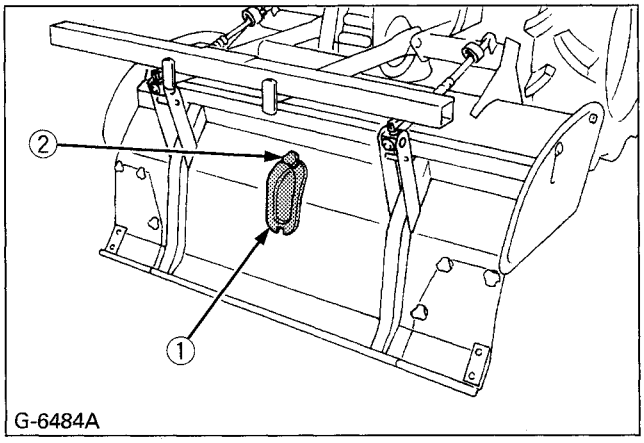
■標準仕様の場合【K仕様除く】

❶爪の配列は2つ盛り耕法の配列にします。(**“２つ盛り耕法の配列”**の項を参照)

❷後2輪は取外します。

❸後2輪ホルダ２は，前後調整の1及び２段目の位置(**“後２輪ホルダ２の前後調整”**の項を参照)にし，上下調整の上側(**“後２輪ホルダ２の上下調整”**の項を参照)にセットしてください。

❹ノブボルトをゆるめ，カバーフタを取外します。取外したカバーフタとノブボルトまたはボルトは，紛失しないように保管しておきます。

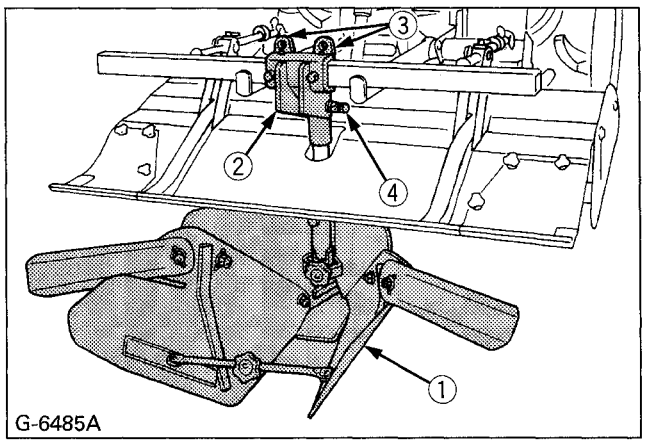


①カバーフタ
②ノブボルト

❺畝立金具を後2輪ホルダ２にピンでセットしてください。

❻ロータリカバー２を上げてロッドのスナップピンで固定します。

❼ロータリカバー２の下側から畝立機を畝立金具に取付け，ボルトで締付けてください。



①畝立機
②畝立金具
③ピン
④ボルト

❽上げて固定したロータリカバー２をロッドのスナップピンを抜き畝立機の上に乗せます。

■培土・片培土反転金具の取扱いについて

❶培土・片培土の調節や反転作業を行なう場合は，必ずエンジンを停止してから行なってください。

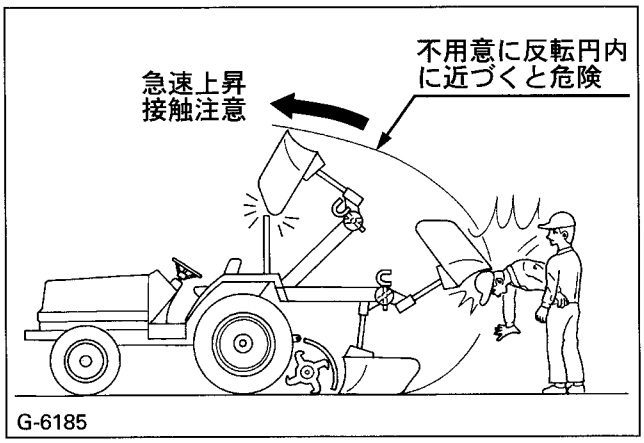
❷培土・片培土を反転させた場合は，すき先が後方に突出して危険ですので注意してください。

❸反転後は，トラクタに乗車してエンジンを始動し，ロータリをゆっくり持ち上げてください。培土・片培土がトラクタ本体やキャノピー・ロプス等に接触しないことを確認し，接触する場合は上限規制※を行なってください。(MA仕様の場合はモンローを始動して確認してください)

❹培土と片培土を供着し，ならし板が接触する場合は，ならし板を取外してください。

❺培土の反転金具には２箇所の反転位置が設けてあります。作業条件に合わせて使い分けてください。

※上限規制はトラクタの油圧レバー上方のボルトをゆるめて調整し，培土が接触しない位置で締付けてください。上限規制を解除する場合はボルトをゆるめて最上方部で締込んでください。決してボルトは取外さないでください。



逆転PTOの使用方法

(1)使用できる作業機

＊メーカ指定のロータリに限ります。

(2)トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。

①軟弱地での土寄せ作業。

代かき作業などを行なう軟弱なほ場で，泥などが盛上がっている場合，逆転PTOを使用して前進しながら土寄せを行なうと，効果があります。このとき，エンジン回転数を低速(1500回転以下)で作業すると泥飛びも少なくなります。

②爪軸に巻付いた草を除去する。

耕うん中に草などが巻付いた場合，ロータリを持上げて，逆転で数分空転させると，草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。

重　要

＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因となります。

＊逆転PTOを使用して，次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。

①逆転耕うん作業

②未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業

③ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

爪軸交換のしかた

注 意

傷害事故の防止のため，爪軸交換をする場合，次の事を守ってください。

＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

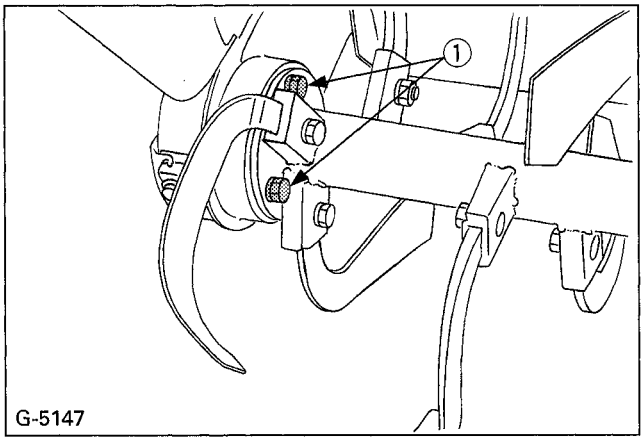
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。

＊ロータリを持上げ，落下速度調整グリップを右いっぱいに回し，油圧をロックします。

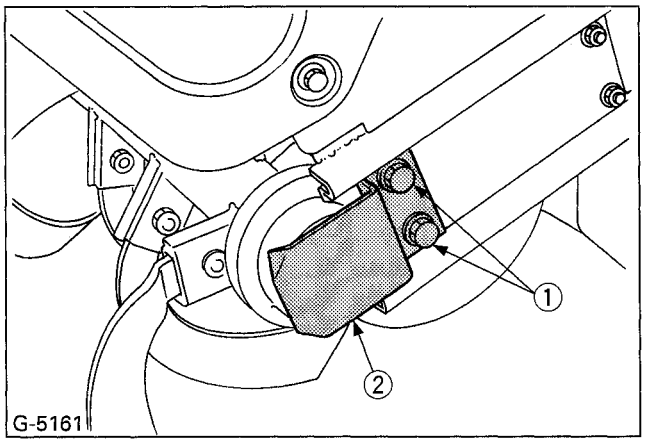
【サイドドライブ仕様】

❶ロータリを持上げ，落下速度調整グリップを回して，油圧をロックします。

❷チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)をゆるめます。



①ボルト



①ボルト
②カバー(サイドフレーム)

❸油圧レバーを下げ落下速度調整グリップを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に着くまでゆっくりと降ろし，再度油圧をロックした後で，サイドフレーム側及びチェーンケース側ボルトを外して，爪軸を交換します。

❹このとき，別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606－48430)を使用すると，より簡単です。

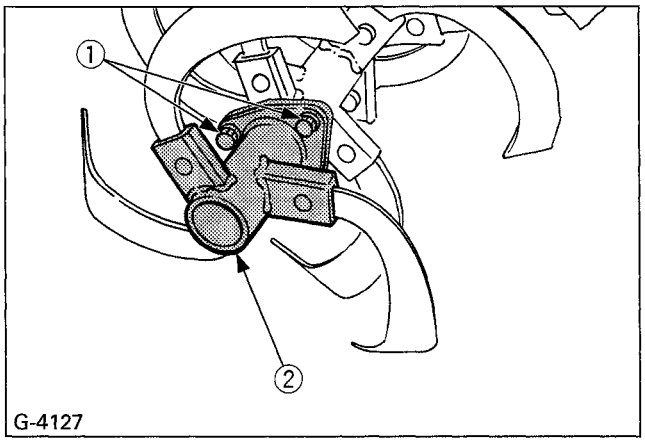
補 足

＊爪軸は，爪軸端部のフランジ側がチェーンケース側にくるように取付けてください。

【センタドライブ仕様】

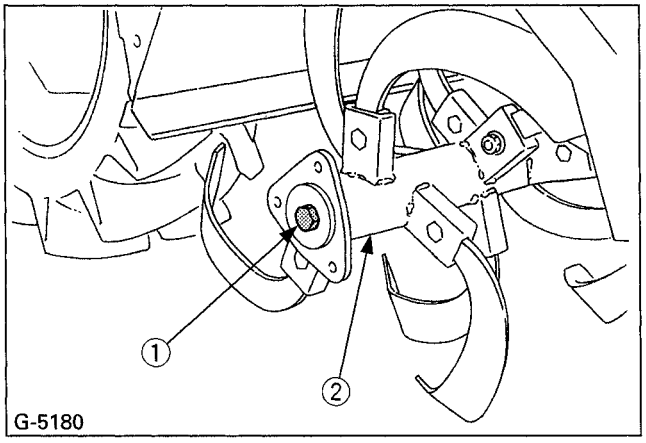
❶ロータリを持上げ，落下速度調整グリップを回して，油圧をロックします。

❷延長爪軸(左・右)を取外してください。(ボルト左右各3本)

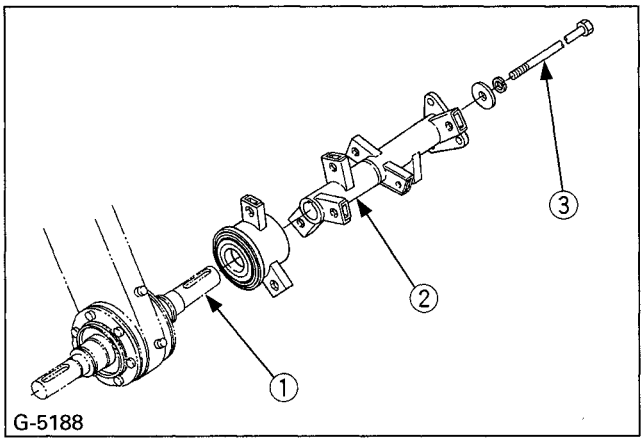


①ボルト
②延長爪軸

❷爪軸取付けボルト(左右各1本)を外して，標準爪軸を引抜き，交換爪軸に取換えてください。



①爪軸取付けボルト
②標準爪軸



G-5188

①耕うん軸
②爪軸右
③爪軸取付けボルト

補　足

＊爪軸の左・右はフランジに溶接しているブラケットにL・Rの刻印があります。

重　要

＊取付けは，外したボルト・ナット，ゆるめたボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。

作業前の点検について(日常点検)

警 告

＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又，紛失したり，損傷した場合，交換してください。 巻込まれや，切傷事故の原因になります。

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行なってください。
※印は，別途作業要領が説明してあります。

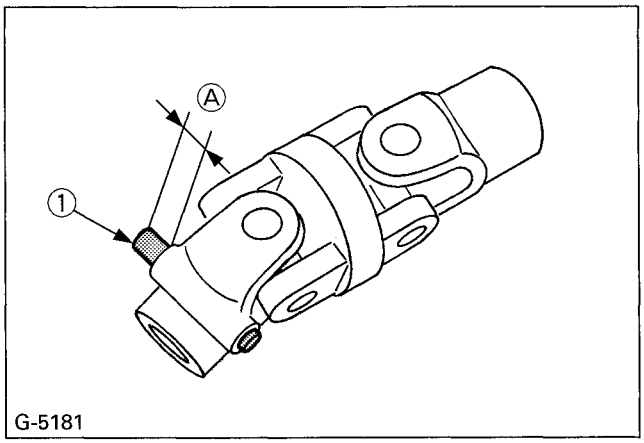
■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日，前使用時の異常箇所。
(2)ロータリの点検ポイント。
＊爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
＊ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
＊ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認 …… ※1
＊油もれ

点検のしかた

1ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7㎜以上出ているかどうかを調べてください。



G-5181

①ロックピン　　Ⓐ“7㎜以上出ているのが正常です”

ロータリの簡単な手入れと処置

定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って，必ず定期点検を実施してください。

注 意

傷害事故の防止のため，点検整備をする場合，次の事を守ってください。

＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

＊エンジンを止め，駐車グリップを掛ける。

＊ロータリの落下防止のため，落下速度調整グリップを右いっぱいに回す。

＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

No.	点検項目		アワーメータの表示時間						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤーケース **【サイドドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		29
		オイル交換	◎					○	
2	チェーンケース **【サイドドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		30
		オイル交換	◎		○			○	
3	ロータリケース **【センタドライブ仕様】**	油量点検		○	○	○	○		30
		オイル交換	◎		○			○	
4	グリースの塗布 ・ユニバーサルジョイントのしゅう動部 ・2点リンク連結部		○	○	○	○	○	○	31
5	グリースの注入 ・サイドフレーム下側ベアリングケース **【サイドドライブ仕様】**				○			○	31
	・後2輪のグリースニップル部		○	○	○	○	○	○	
6	注油 ・内管(後2輪調整ネジ部) ・オートハンガしゅう動、回動部 **【E・SE・K仕様除く】** ・草巻付き防止ワイヤU金具内部 **【E・SE・K仕様除く】**		○	○	○	○	○	○	31・32

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行ってください。

給油一覧表

給　油（水）項　目	容　　量（L）	使　用　オ　イ　ル
ギヤーケースオイル **【サイドドライブ仕様】**	1.2	クボタ純オイルM90又はクボタ推奨オイル
チェーンケースオイル **【サイドドライブ仕様】**	0.6	
ロータリケースオイル **【センタドライブ仕様】**	1.2	
グリースの注入・塗布 ・ユニバーサルジョイント ・2点リンク連結部 ・サイドフレーム下側 ベアリングケース **【サイドドライブ仕様】** ・後2輪支柱**【B仕様】**	適　　量	シャーシグリース
注油 ・内管（後2輪調整ネジ部） ・オートハンガしゅう動、 回動部**【E・SE・K仕様除く】** ・草巻付き防止ワイヤ U金具内部**【E・SE・K仕様除く】**	適　　量	クボタ純オイル又はクボタ推奨オイル （エンジンオイル）

推奨オイル・グリース一覧表

■オイル

メ　　ー　　カ	ギ　　ヤ　　ー　　オ　　イ　　ル
日　石　三　菱	クボタ純オイル（ミッション用）M90又はクボタ推奨オイル
コ　ス　モ　石　油	クボタ純オイル（ミッション用）M90又はクボタ推奨オイル
ジャパンエナジー	クボタ純オイル（ミッション用）M90又はクボタ推奨オイル
昭和シェル石油	クボタ純オイル（ミッション用）M90又はクボタ推奨オイル
富　士　興　産	クボタ純オイル（ミッション用）M90又はクボタ推奨オイル
モ　ー　ビ　ル　石　油	クボタ推奨オイル(モービルギヤ630)

■グリース

メ　　ー　　カ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日　石　三　菱	エピノックグリースAP-No.2	PAN　WBグリース
コ　ス　モ　石　油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モ　ー　ビ　ル　石　油	プレックス47	モービルグリースJL
エ　ッ　ソ　石　油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出　光　興　産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
ゼ　ネ　ラ　ル　石　油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キ　グ　ナ　ス　石　油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

各部の油量点検と交換

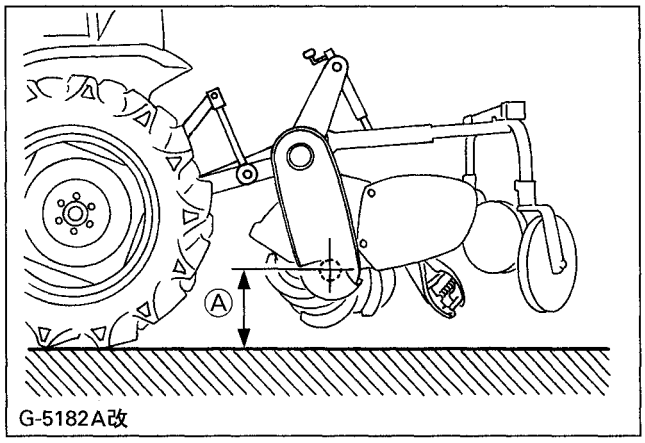
使用するギヤーオイルは，必ず**“クボタ純オイル”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

補　足

＊ロータリのオイル量を点検するときは，トラクタの型式によってロータリの爪軸中心高さを調整して行なってください。
爪軸中心高が正しくないと正確な量を示さないことがあります。

オイル量点検時の爪軸中心高さh(cm)			
ロータリ / トラクタ	サイドドライブ		センタドライブ
	ギヤケース	チェーンケース	ロータリケース
GB110	24.5	23.0	23.0
GB130	22.5	22.5	22.5
GB140	23.0	22.5	23.0
GB150,GB170	23.5	24.5	24.5

(但しバラツキによる誤差はあります)



Ⓐ“爪軸中心高さ(h)”

■ギヤーケースオイル

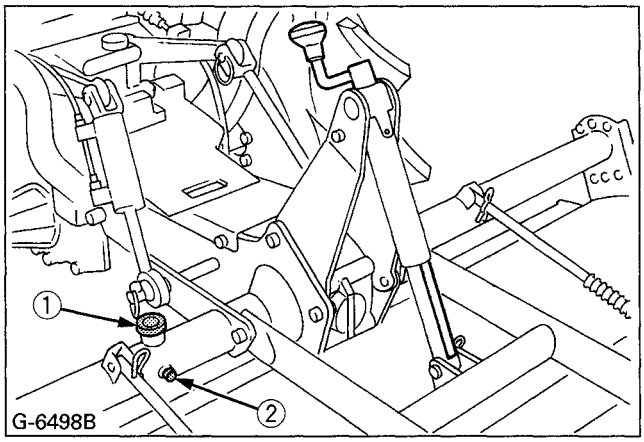
【サイドドライブ仕様】

◆点検

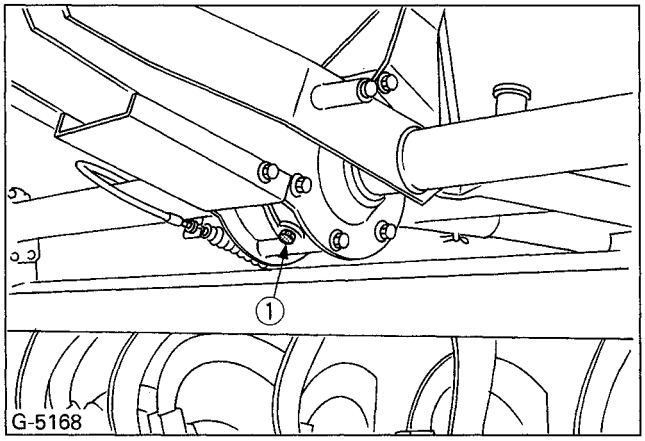
❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(**“各部の油量点検と交換”**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合はギヤーオイルを検油口まで補給してください。



①給油プラグ
②検油プラグ



①ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量(1.2L)入れてください。

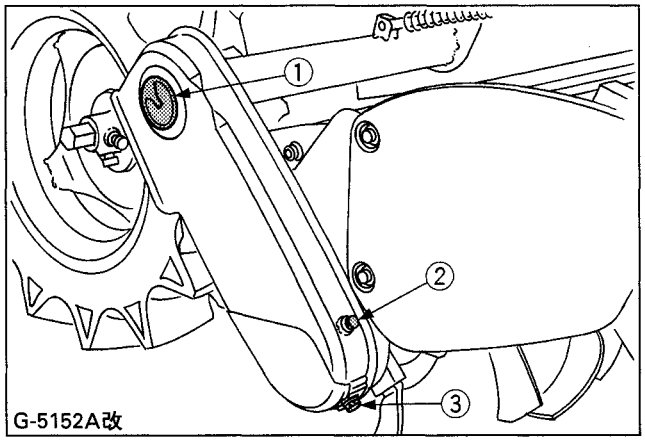
■チェーンケースオイル
【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(**"各部の油量点検と交換"**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合はギヤーオイルを検油口まで補給してください。



①給油口
②検油プラグ
③ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量(0.6L)入れてください。

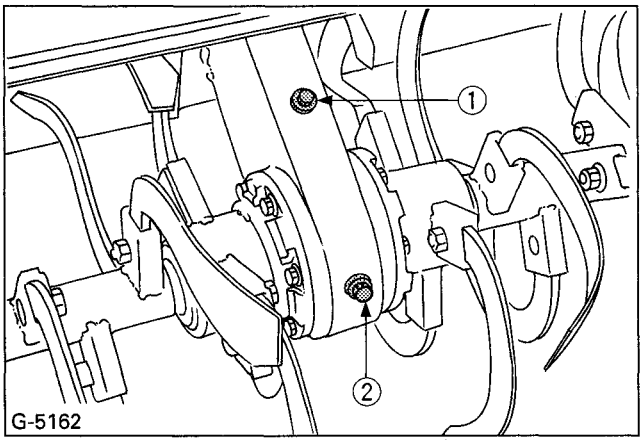
■ロータリケースオイル
【センタドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。
(**"各部の油量点検と交換"**の項を参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合はギヤーオイルを検油口まで補給してください。

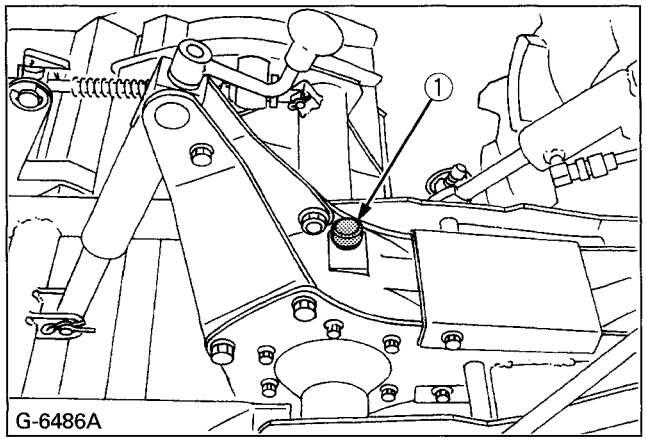


①検油プラグ
②ドレーンプラグ

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量(1.2L)入れてください。



①給油プラグ

グリース・オイルの補給と注油

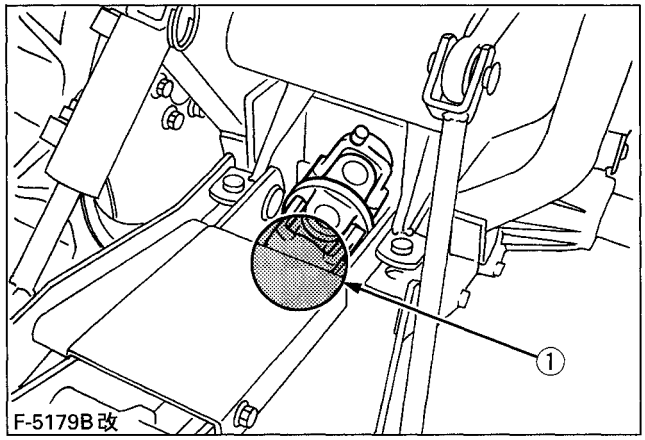
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。但し，代かき作業などで泥水に入ったときは，作業終了後必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

■ユニバーサルジョイント

しゅう動部は，ジョイントを取外して，ベアリンググリースを適量塗布してください。

補 足

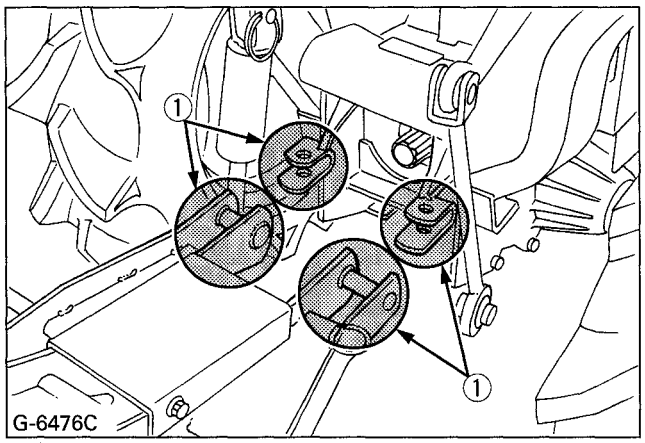
＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。



①しゅう動部

■2点リンク連結部

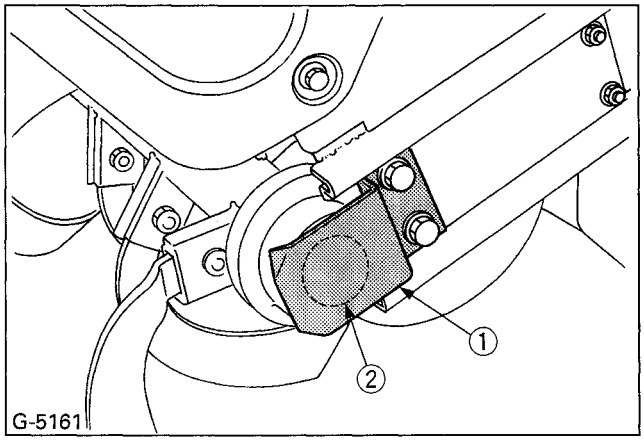
ロータリを外し，グリースを塗布します。



①2点リンク連結部

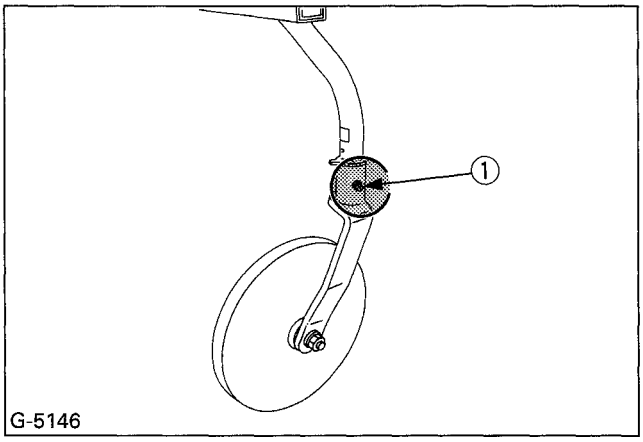
■サイドフレーム下側ベアリングケース【サイドドライブ仕様】

サイドフレーム下部の保護カバーとキャップを外して，ベアリンググリースを注入します。



①保護カバー
②キャップ

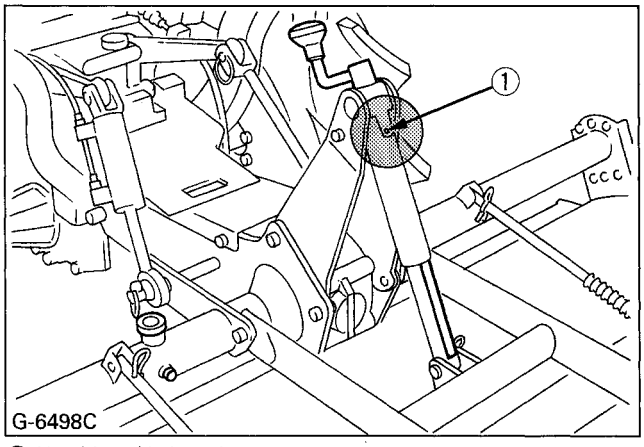
■後2輪のグリースニップル部【B仕様】



①グリースニップル

■内管(後2輪調整ネジ部)

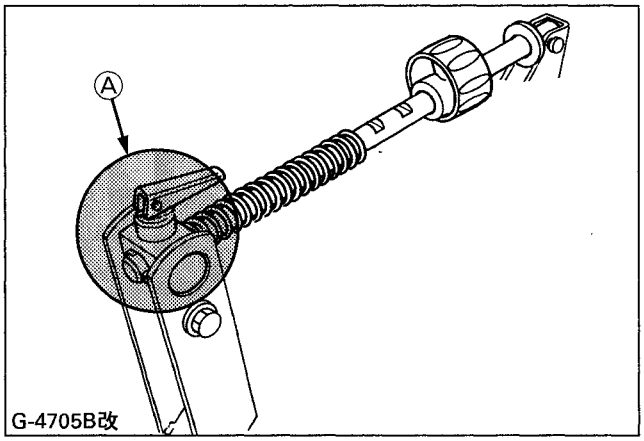
オイルを適量注油します。



①後2輪調整ネジ部

■オートハンガしゅう動，回動部【E・SE・K仕様及びRK80W2-SPB，RK70-SPBを除く】

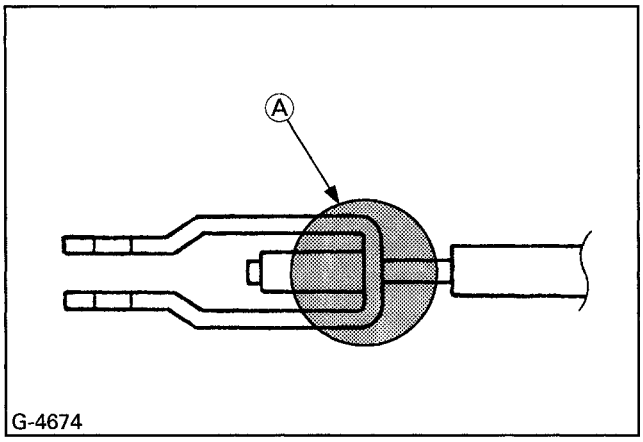
オイルを適量注油します。



Ⓐ“注油”

■草巻付き防止ワイヤU金具内部【E・SE・K・センタドライブ仕様除く】

オイルを適量注油します。



Ⓐ“注油”

シールの組換え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケース等を分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，ゴム付座金，液状ガスケット，コーティングボルト等と交換してください。オイルもれの原因となります。

液状ガスケットはスリーボンド1206B又は1208D又はその相当品を使用してください。

付　表

主要諸元

型式名		RS100SE(-K)	RS110	RS110-K RS110-E	RS120	RS130	RS140	RS150	RK110	RK110SE	RK130	RK80W	RK80W2 -SPB	RK70- SPB
駆動方式		サイドドライブ							センタドライブ					
機体寸法	全長(mm) (B仕様)	845 (1155)	965(1275)							915 (1225)	965(1275)			
	全幅(mm)	1180	1280	1280	1380	1480	1580	1680	1210	1210	1410	1210	1110	910
	全高(mm)	662	940	662	940					662	940			
質量(kg) (B仕様)		100 (115)	116 (131)	104 (130)	120 (135)	124 (139)	128 (143)	132 (147)	125 (140)	113 (138)	135 (150)	(135)	(135)	(130)
適応トラクタ kW(PS)		GB110 7.7(10)	GB110, GB130, GB140, GB150, GB170 7.7, 9.6, 10.3, 11.0, 12.1(10, 13, 14, 15, 17)											
標準耕幅(cm)		101	111	111	121	131	141	151	112[83]	112[83]	132[83]	112[83]	102[83]	73[53]
標準耕深(cm)		12												
標準作業速度(km/h)		0.55～4.0												
入力軸回転数(rpm)		523～969(逆転409～418)												
変速の有無		—												
装着装置の種類		2点リンク												
※1 耕うん軸回転数 (rpm)	GB110	182[正転：176, 308　逆転：141]							181[正転：175, 307　逆転：140]					
	GB130, GB140	182[正転：180, 326　逆転：139]							181[正転：179, 324　逆転：138]					
	GB150, GB170	182[正転：179, 323　逆転：138]							181[正転：178, 322　逆転：137]					
耕うん爪	取付方法	ホルダタイプ												
	種類と本数	331号R, L各11本 332号R, L各1本	331号R, L各12本 332号R, L各1本	331号R, L各12本 332号R, L各1本	331号R, L各13本 332号R, L各1本	331号R, L各14本 332号R, L各1本	331号R, L各15本 332号R, L各1本	331号R, L各16本 332号R, L各1本	321号R, L各11本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各11本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各13本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各11本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各11本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各8本 533号R, L各2本 534号R, L各1本
	回転直径(mm)	450												
耕深調節機構		後方双尾輪，メカオート											後方双尾輪	
耕うん作業能率 (分/10a)	$\frac{6000}{w \cdot V \cdot E}$	20～144	18～131	18～131	17～120	15～111	14～103	13～96	18～130	18～130	15～110	18～130	20～143	27～199

※1 耕うん軸回転数は入力軸540rpmのとき

[ ]内は各PTO変速での回転数

w：標準耕幅(cm)，V：標準作業速度(km/h)，E：ほ場作業効率(0.75)

標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1
マッドガード(RK130)	1
プレート(オサエ)(RK130)	1

アタッチメント一覧表(純正アタッチメントを使いましょう)

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ RS 100SE	RS 110(E)	RS 120	RS 130	RS 140	RS 150	RK 110(SE)	RK 130	RK 80W	RK80 W2-SPB	RK70 SPB
耕うん	7F710-5754-3	耕うん爪アッシ(24)	331号なた爪R・L各11本 332号なた爪R・L各1本		○										
	7F711-5754-3	耕うん爪アッシ(26)	331号なた爪R・L各12本 332号なた爪R・L各1本			○									
	7F712-5754-3	耕うん爪アッシ(28)	331号なた爪R・L各13本 332号なた爪R・L各1本				○								
	7F713-5754-3	耕うん爪アッシ(30)	331号なた爪R・L各14本 332号なた爪R・L各1本					○							
	7F714-5754-4	耕うん爪アッシ(32)	331号なた爪R・L各15本 332号なた爪R・L各1本	—					○						
	7F115-5754-3	耕うん爪アッシ(34)	331号なた爪R・L各16本 332号なた爪R・L各1本							○					
	70198-5762-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各11本 533号なた爪R・L各2本 534号なた爪R・L各1本								○		○	○	
	70199-5762-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各13本 533号なた爪R・L各2本 534号なた爪R・L各1本									○			
	70461-5555-0	爪取付け部品1	ボルト・ナット バネ座金各1個	—	○ 24	○ 26	○ 28	○ 30	○ 32	○ 34	○ 28	○ 32	○ 28	○ 28	○ 22
	96195-0560-0	200延長 爪軸アッシ	左右各10cm延長	—							○				
	96261-1200-0	残耕処理爪アッシ	あぜ際の残耕処理	—	○	○	○	○	○	○					
整地	96272-2610-0	折りたたみ整地部	延長整地幅 左右各26cm	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
うねたて	96220-7550-0	4号 うねたて機	溝幅12cm 軸径3.4cm 羽根長さ75.4cm	うねたて反転金具 96220-7420-0うねたて金具 標準カバー仕様(培土穴付) 96220-0010-0 Vカバー仕様 99042-1770-0 GB15前部ウエイトアッシ 96315-1550-0 14kg, 1個 (3個まで装着可)	○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96220-7560-0	5号 うねたて機	溝幅13.5cm 軸径3.4cm 羽根長さ76.5cm		○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96220-7570-0	7号 うねたて機	溝幅21cm 軸径3.4cm 羽根長さ82cm		○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96220-7580-0	4号 うねたて機(軽量)	溝幅12cm 軸径3.4cm 羽根長さ62cm		○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96220-0010-1	うねたて金具	軸径3.4cm用	4号・5号・7号・4号(軽量) うねたて機	○☆	○※☆	○※	○※	○※	○※	○※☆	○※	○		
	99042-1770-0	うねたて金具	軸径3.4cm用	4号・5号・7号・4号(軽量) うねたて機		Ⓥ☆	Ⓥ	Ⓥ	Ⓥ		Ⓥ☆	Ⓥ			
	96220-7420-0	うねたて反転金具	軸径3.4cm用	4号(軽量)・5号・7号 うねたて機		Ⓥ☆	Ⓥ	Ⓥ			Ⓥ☆	Ⓥ	○		
	96230-7570-2	片培土機アッシ	溝幅18cm 軸径3.8cm 羽根長さ74.9cm	(片培土反転金具 96230-7630-0)	○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96230-7590-0	片培土機アッシ(軽量)		(片培土反転金具 96230-7630-0)	○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96230-7640-1	反転片培土アッシ	反転金具付片培土		○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96230-7630-0	片培土反転金具	固定式の片培土を反転式に変更する	片培土機アッシ(軽量含む)	○☆	○☆	○	○	○	○	○☆	○	○		
	96196-0120-0	RS120 後2輪アッシ	スタンド仕様に 後2輪を装着する	—		○☆	○	○	○	○	○☆	○	○	○	○

○の下の数字は1台当りの個数を示します。
○の下の※印付は標準(畝立穴付)カバー仕様のみを示します。(Vカバー仕様には使用不可。)
○内のVはVカバー仕様のみを示します。(畝立穴付カバー仕様には使用不可。)
○の下の☆印付は，RS100SE-Kには装着不可。RS100SE，RK110SEのスタンド仕様には装着不可。但し別途後2輪ホルダアッシを購入すればRS100SE，RK110SEには装着可。

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ										
					RS 100SE	RS 110	RS 120	RS 130	RS 140	RS 150	RK 110(SE)	RK 130	RK 80W	RK80 W2-SPB	RK70 -SPB
うねたて	96196-0010-0	RS100SE 後2輪ホルダアッシ	後2輪調整ネジ 後2輪ホルダ 後2輪付	—	○										
	96196-0020-0	RS110-E 後2輪ホルダアッシ	後2輪調整ネジ 後2輪ホルダ 後2輪付	—		○					○				
マルチ・整形機関係	96280-3504-0	平うねマルチアッシ	プラウ爪なし, うね幅 80~120cm うね高さ 20~30cm フィルム幅 90~150cm	マルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○	○	○	○			
	96280-5504-0	平高うねマルチアッシ	プラウ爪なし, うね幅 80~120cm うね高さ 15~30cm フィルム幅 110~150cm		○	○	○	○	○	○	○	○			
	96280-7103-0	小うねマルチアッシ	プラウ爪なし, うね幅 47~55cm うね高さ 27~33cm フィルム幅 95~110cm		○	○					○				
	98619-7571-0	PHL-12 ライトエイブル 平高整形機	プラウ爪あり, うね幅 80~150cm うね高さ 13~30cm		○	○	○	○	○	○	○	○			
	98619-7471-0	PHM-L-12 ライトエイブル 平高マルチ	フィルム幅 95~150cm		○	○	○	○	○	○	○	○			
	98619-8261-0	LMB-H-1 汎用うねたてマルチ	小うね		○	○					○				
	98619-1971-0	STP-200 ロータリ2畦 整形機			○	○	○	○	○		○	○			
	96198-0811-0	プラウ爪(右)			○	○	○	○	○	○	○	○			
	96198-0812-0	プラウ爪(左)			○	○	○	○	○	○	○	○			

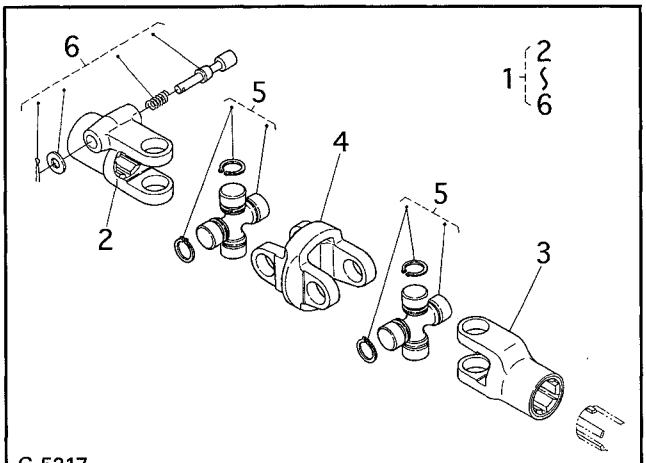
注) マルチ・整形機関係はRS100SE-Kには装着不可。RS100SE, RK110SEのスタンド仕様には装着不可。但し別途後2輪ホルダアッシを購入すればRS100SE, RK110SEには装着可。

アタッチメントの装着により前後バランスが悪くなった場合は、下記ウエイトを装着してください。

品番	品名	備考
96315-1550-0	GB15前部ウエイトアッシ	14kg, 1個 (トラクタには3個まで装着可能)

注) 本ウエイトは、GB110, GB130, GB140, GB150, GB170用です。

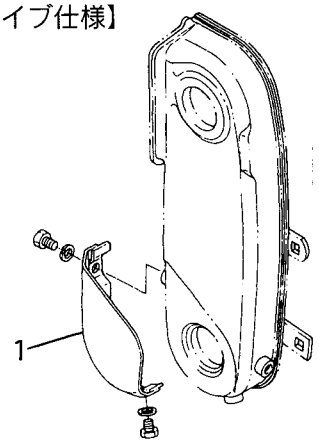
主な消耗部品一覧表(純正部品を使いましょう)



G-5217

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ユニバーサルジョイントアッシ	7F212-7101-0	1
2	ヨーク	7F312-7102-0	1
3	ヨーク(スライド)	7F212-7103-0	1
4	ヨーク(ダブル)	7F312-7104-0	1
5	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
6	ロックピンアッシ	70678-5822-0	1

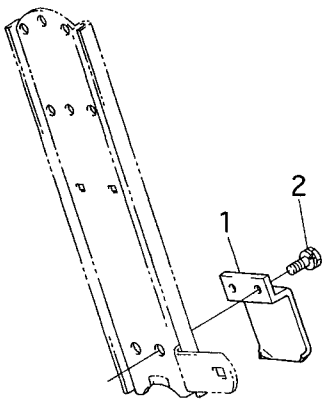
【サイドドライブ仕様】



F-6926

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(ホゴ)	70159-5415-0	1

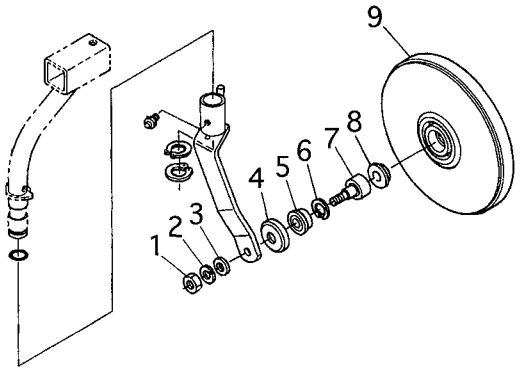
【サイドドライブ仕様】



G-5218

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(サイドフレーム)	7F312-5551-2	1
2	ボルト	01133-51220	2

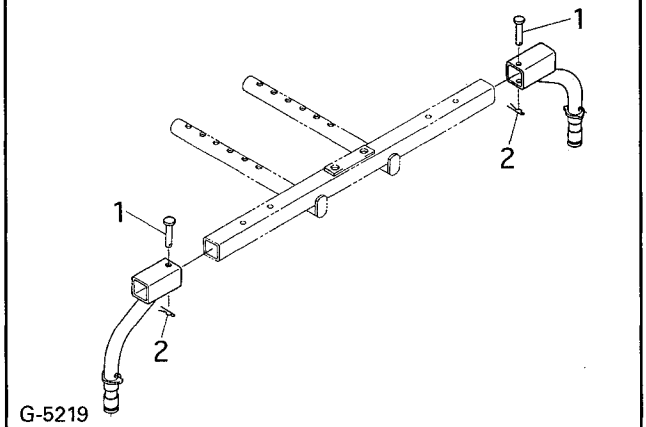
【後2輪仕様】



G-5246

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ナット	02174-50160	1
2	バネザガネ	04512-50160	1
3	ヒラザガネ	04011-50160	1
4	カバー(ステー)	70159-5754-0	1
5	オイルシール(TCFY203712)	79153-3553-2	1
6	アナサークリップ	04611-00370	1
7	コウ2リンジクアッシ	79153-3552-0	1
8	シールキャップ	79163-3549-0	1
9	コウ2リン310	79153-7551-2	1

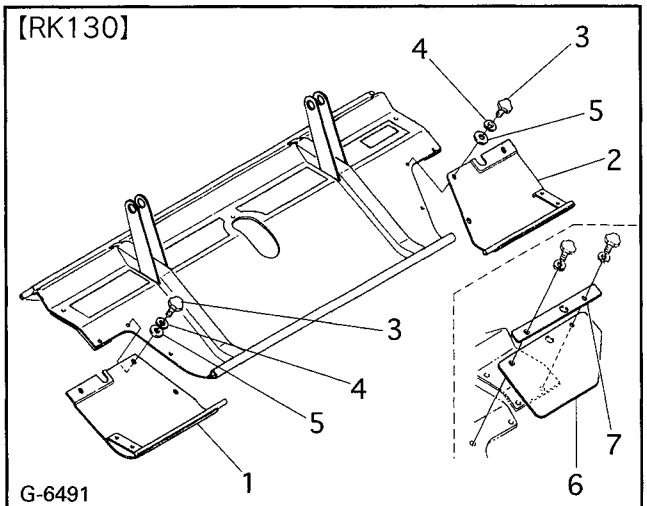
【後2輪仕様】



G-5219

図番	品　　名	品　　番	個数
1	アタマツキピン	05122-51270	2
2	スナップピン	05516-51200	2

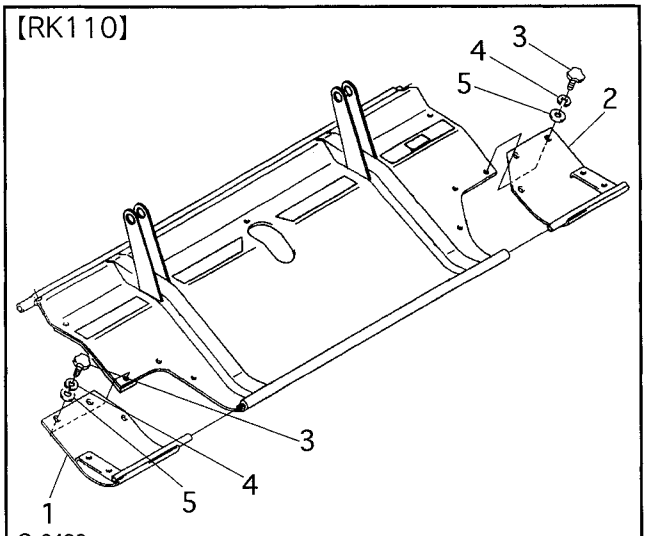
【RK130】



G-6491

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(ホジョ，L)	7F383-5623-0	1
2	カバー(ホジョ，R)	7F383-5624-0	1
3	ノブボルト	01820-50815	6
4	バネザガネ	04512-50080	6
5	ヒラザガネ	04013-50080	6
6	マッドガード	7F383-5627-0	2
7	プレート(オサエ)	7F383-5628-0	2

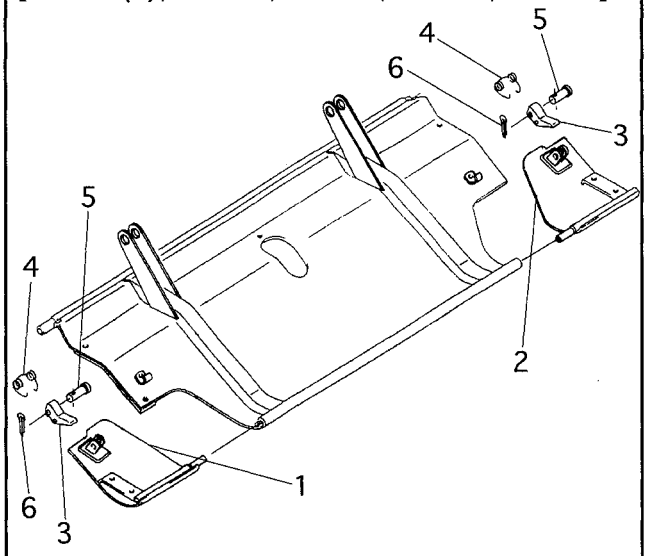
【RK110】



G-6492

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(ホジョ，L)	7F312-5623-0	1
2	カバー(ホジョ，R)	7F312-5624-0	1
3	ノブボルト	01820-50815	6
4	バネザガネ	04512-50080	6
5	ヒラザガネ	04013-50080	6

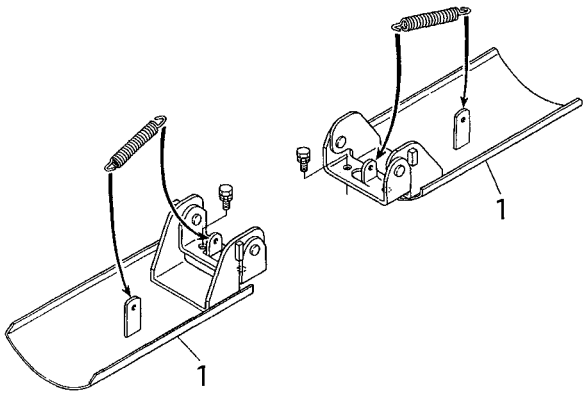
【RS110(E), RS120, RS130, RS140, RS150】



G-6493

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(ホジョ，L)	7F212-5627-0	1
2	カバー(ホジョ，R)	7F212-5628-0	1
3	クリップ	70155-5667-0	2
4	ネジリスプリング	70155-5668-0	2
5	アタマツキピン	05122-50630	2
6	ワリピン	05511-51612	2

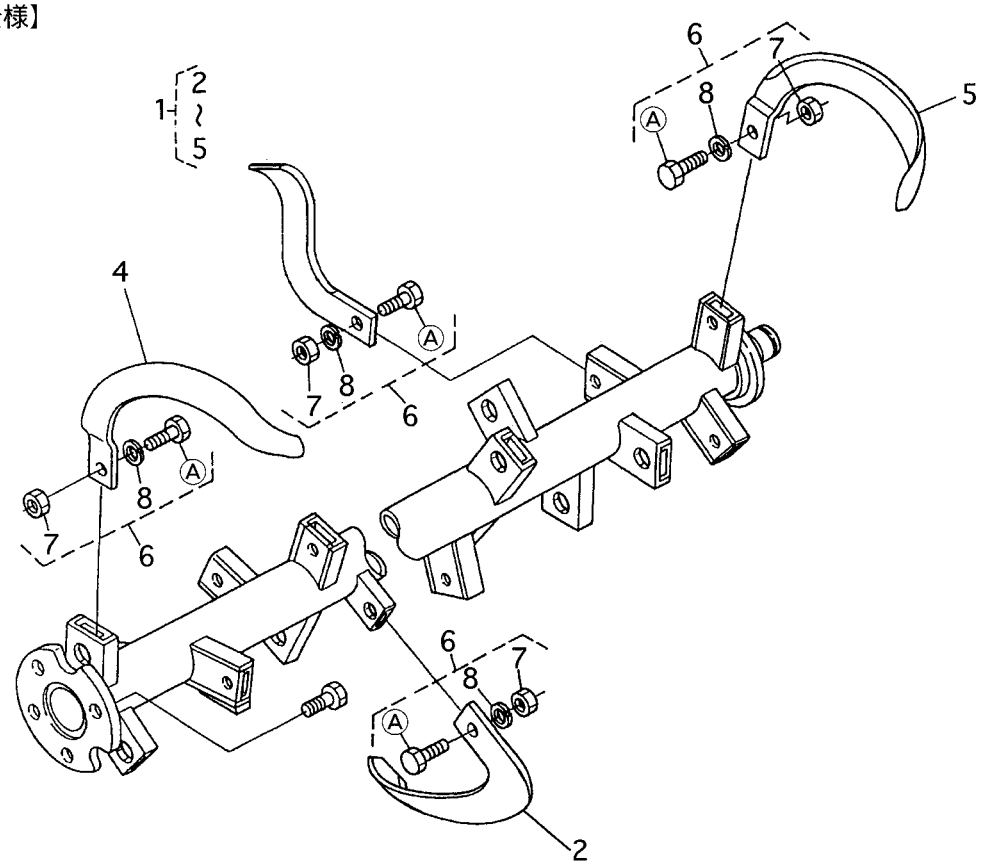
【E仕様除く】



G-5222

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(エンチョウ)	7F312-5691-2	2

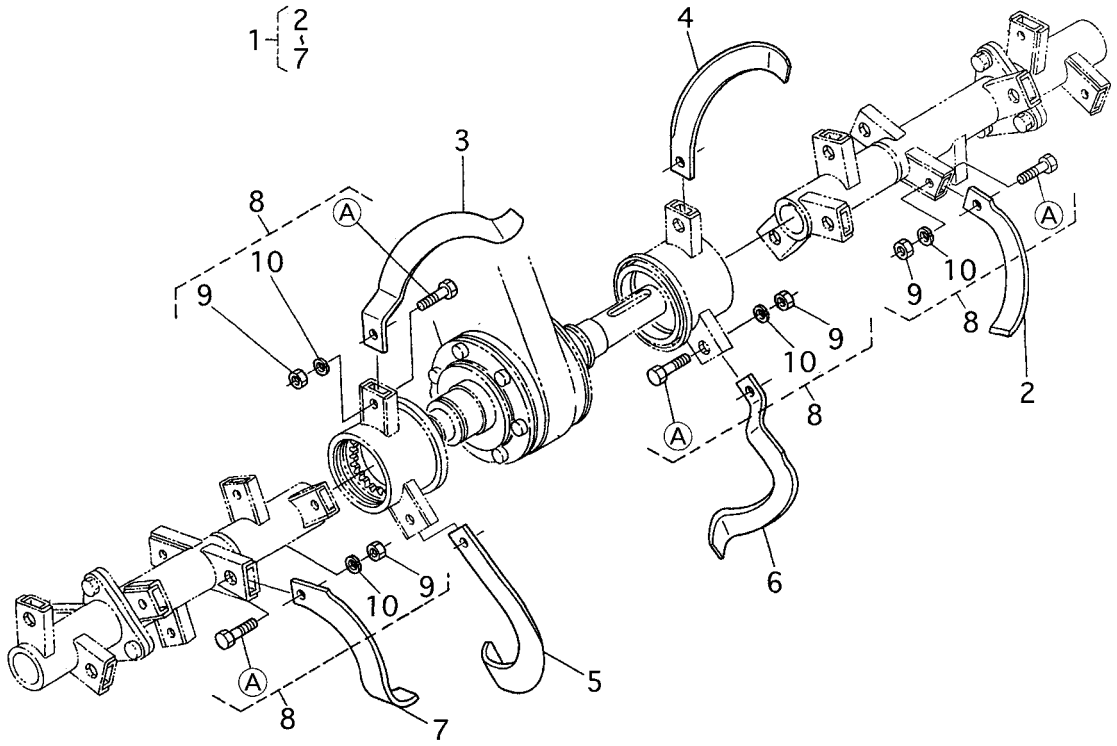
【サイドドライブ仕様】



G-5223

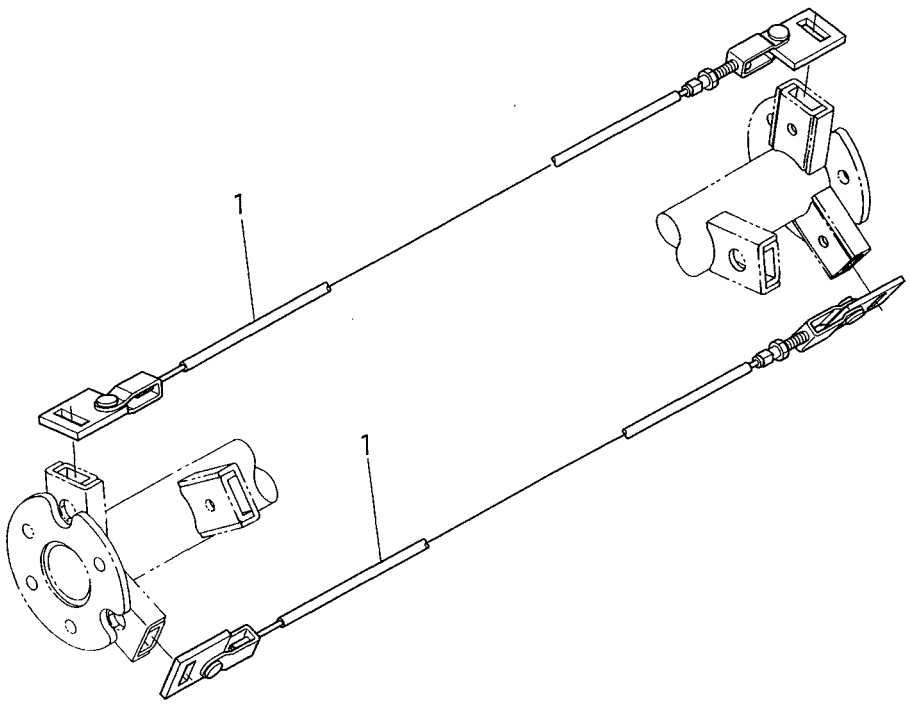
図番	品　　名	品　　番	個　　数						備　　考
			RS100SE	RS110(E)	RS120	RS130	RS140	RS150	
1	コウウンヅメ，アッシ(24)	7F710-5754-3	1	−	−	−	−	−	②～⑤
1	コウウンヅメ，アッシ(26)	7F711-5754-3	−	1	−	−	−	−	②～⑤
1	コウウンヅメ，アッシ(28)	7F712-5754-3	−	−	1	−	−	−	②～⑤
1	コウウンヅメ，アッシ(30)	7F713-5754-3	−	−	−	1	−	−	②～⑤
1	コウウンヅメ，アッシ(32)	7F714-5754-4	−	−	−	−	1	−	②～⑤
1	コウウンヅメ，アッシ(34)	7F715-5754-3	−	−	−	−	−	1	②～⑤
2	コウウンヅメ(331，L)	7F712-5581-2	−	12	13	14	15	16	
3	コウウンヅメ(331，R)	7F712-5582-2	−	12	13	14	15	16	
4	コウウンヅメ(332，ゾウフク，L)	7F712-5585-0	−	1	1	1	1	1	
5	コウウンヅメ(332，ゾウフク，R)	7F712-5586-0	−	1	1	1	1	1	
6	ツメトリツケブヒン　1	70461-5555-0	−	26	28	30	32	34	⑦，⑧，Ⓐ
7	ツメトリツケナット	64135-9519-3	−	26	28	30	32	34	
8	バネザガネ	04512-50100	−	26	28	30	32	34	

【センタドライブ仕様】



G-5247

図番	品　　名	品　　番	個　　数		備　　考
			RK80W, RK110(SE)	RK130	
1	コウウンヅメアッシ	70198-5762-0	1	−	②～⑦
1	コウウンヅメアッシ	70199-5762-0	−	1	②～⑦
2	コウウンヅメ321　ミギ	96181-1222-2	11	13	
3	533ナタヅメ　ヒダリ	70101-5551-4	2	2	
4	533ナタヅメ　ミギ	70101-5552-4	2	2	
5	534ヘンケイヅメ　ヒダリ	70101-5553-4	1	1	
6	534ヘンケイヅメ　ミギ	70101-5554-4	1	1	
7	コウウンヅメ321　ヒダリ	96181-1221-2	11	13	
8	ツメトリツケブヒン　1	70461-5555-0	28	32	⑨, ⑩, Ⓐ
9	ツメトリツケナット	64135-9519-3	28	32	
10	バネザガネ	04512-50100	28	32	



G-5973A

図番	品　　名	品　　番	個　数				
			RS110	RS120	RS130	RS140	RS150
1	ワイヤ，アッシ(11)	7F611-5550-0	2	-	-	-	-
1	ワイヤ，アッシ(12)	7F612-5550-0	-	1	-	-	-
1	ワイヤ，アッシ(12，S)	7F212-5550-0	-	1	-	-	-
1	ワイヤ，アッシ(13)	7F613-5550-0	-	-	2	-	-
1	ワイヤ，アッシ(14)	7F614-5550-0	-	-	-	2	-
1	ワイヤ，アッシ(15)	7F615-5550-0	-	-	-	-	2

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166　〒811-0213　福岡市東区和白丘１丁目７番３号

RS100SE(K)・110(E)(K)(N)・120・130(PC)・140(PC)・150(PC),
RK70-SPB・80W・80W2-SPB・110(SE)・130
AG．△．6－6．20．AK

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番 7F212－5991－3

Kubota